

**平成20年度前期授業満足度アンケート  
調査結果報告書**

平成20年10月

名城大学 FD委員会

# 目次

---

授業満足度アンケート調査結果について	1
〔調査実施資料〕	
調査概要と対象者属性	2
学生用アンケート用紙	3
教員用アンケート用紙	5
〔授業科目の改善ポイント〕	
1 授業科目の集計と項目別改善ポイント	7
2 改善ポイントの見方の例	8
3 調査結果のまとめ	9
4 学部別改善ポイント	11
〔学部別分析結果〕	
5 教員の自己評価と学生評価との比較	13
6 学生と教員の評価のちがいと授業満足度との関係	19
7 授業満足度と相関の高い項目	20
8 学生の学力分布のタイプ分け	26
9 学力程度別の授業満足度	27
10 教員と学生の対象レベルの一致	28
11 出席率について	29
12 出席学生数と出席学生数別満足度	30
13 自学自習時間と授業満足度の関係(1)	31
14 自学自習時間と授業満足度の関係(2)(授業プロット)	32
15 着席位置と授業満足度の関係	34
〔設問別集計結果〕	
16 基礎データ教員用設問 全体	35
17 基礎データ学生用設問 全体	36
18 基礎データ教員用設問	37
19 基礎データ学生用設問	53

# 授業満足度アンケート調査結果について

---

本学では平成12年より授業満足度アンケートを実施し、教員の授業スキル向上をはかってまいりました。授業改善も新たなシーンに向かい、アンケート手法もますます進化しております。本アンケートでは教育力のさらなる向上を目指し、昨年に引き続き、学生、教員、双方の評価に基づき、多角的な観点から授業を分析しました。

アンケート結果は、科目毎に集計され、授業期間中に各先生へフィードバックされました。全体の集計に基づいた分析結果は、別途、本報告書としてまとめられました。さらに、自由記述欄に関する内容をFDニュースで報告することを計画しております。授業改善にぜひお役立てください。

本結果報告書では、前半に分析検討結果を、後半に基礎データとして設問毎の集計結果を掲載しました。まず、前半部の「調査結果のまとめ」、「学部別改善のポイント」では、アンケート結果が示す本学の教員の（強み）と（弱み）をまとめました。名城大学の教員は専任と非常勤に関わらず熱意をもって授業改革に取り組んでいること、また、それを半数以上の学生が正しく評価していることが分かりました。次に、「教員の自己評価と学生評価との比較」にて、教員と学生との意識のギャップを調べ、昨年度との比較を示すとともに、タイプ分けをおこない満足度との関係を考察しました。学生のアンケートの総得点が高いほど、教員とのギャップが少ないほど、満足度が高くなることが示されました。「授業満足度と相関の高い項目」では、授業満足度を決める要因およびその得点を、大学全体、学部毎に図に表しました。図の右側に位置する項目の改善が満足度を向上させるために特に有効であることがわかっております。「学生の学力分布のタイプ分け」、「学力程度別の授業満足度」、「教員と学生の対象レベルの一致」では学生の学力レベルが総合満足度に与える影響を多角的に調べました。「出席率について」、「出席学生数と出席学生数別満足度」では、授業環境として出席学生数が満足度に与える影響を、「自学自習時間と満足度の関係」では自学自習時間と満足度の関係を検討しました。「授業満足度×自学自習時間」では、昨年同様、自学自習時間という指標も取り入れた総合的な授業の評価をおこないました。また、「着席位置と授業満足度の関係」では、前方に着席する積極的學生と後方の消極的學生との差を検討しました。

以上をとおり、各学部において、着席位置、自学自習時間ならびに学力レベルは授業満足度と強い相関を持つことが判明しました。即ち、【前に着席＝勉強する＝成績良い＝満足度高い】という強い結びつきがデータの的に証明されました。これは今回のアンケートの最も大きい収穫です。学生が究極的に満足できる授業とは、日頃教員が夢に描いていた授業そのものでした。つまり、教員、学生が相思相愛の関係を築けるにたる授業です。何の躊躇がありません、ご自身の理想とするところに邁進してください。必ずや授業満足度は向上します。とはいえ、教員個人の力は限られております。各教員を強くサポートする体制が整うことも大切です。この様な要望に微力なりともお役に立つよう、学生満足度チームは努力します。何卒、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

FD委員会 学生満足度チーム 座長 成塚重弥

# 調査概要と対象者属性

## 目的

昨年後期同様、今年度も同一科目を対象に学生アンケートと教員アンケートを同時に実施し、相互の視点から立体的に授業を評価いたします。さらにアンケート結果を早急に(授業ターム内に)先生方にフィードバックすることで、リアルタイムな授業改善、次年度のシラバス作成に結果を反映させることを目的とします。また、前回の調査質問と基本的に同一のものとし、改善程度も把握します。

## 調査方法

教員調査、学生調査ともマークシートによる自記式アンケート

## 実施期間

2008.6.23 ~ 2008.7.11

## 調査主体

FD委員会 学生満足度チーム

## 対象授業

本アンケートは平成20年度前期に学部 of 授業を担当する専任教員と非常勤講師を対象とし、担当授業のうち最も履修者が多い講義科目において実施しました。ただし以下のいずれかの項目に該当する授業は対象から除きました。

- ・ 体育科目
- ・ リレー方式で開講されている科目
- ・ 実験・実習・演習など講義以外の科目

## 回答者属性

○学生 44,821人

○教員 636人 (739設定授業中 671授業で実施 実施率90.8%) ※

※実施授業数と教員回答者数が合致しないのは、アンケートを記入していない教員が存在するため

## 開講学部別回答者数

	実施授業数	学生		教員	
		専任授業受講	非常勤授業受講	専任	非常勤
法学部	92	2,719	2,731	29	59
経営学部	38	2,685	781	25	11
経済学部	30	3,470	553	22	7
理工学部	273	10,703	6,087	141	123
農学部	43	2,877	1,094	29	13
薬学部	25	2,634	0	25	0
都市情報学部	29	1,363	272	22	6
人間学部	30	1,142	1,257	13	15
教職課程	24	468	478	8	16
全学共通教育部門	87	611	2,896	9	63
計	671	28,672	16,149	323	313

# 学生用アンケート用紙 (1)

平成20年度前期授業満足度アンケート(学生用)

名城大学FD委員会  
学生満足度チーム

このアンケート調査は、学生の視点から授業の満足度を測り、これを授業の改善に結びつけることを目的として実施するものですので率直に回答して下さい。

なお、ご回答いただきました内容は授業改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しません。

- はじめに：マークカードに科目名・実施日を記入してください。氏名・学籍番号は記入およびマークする必要はありません。
- 回答方法：もともと当てはまる記号を一つ選び、鉛筆でマークしてください。質問22はマークカードの自由記述欄、もしくはマークカードの裏面に記入してください。

- 1 この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にあると思う。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
  
- 2 授業中は、私語などをせず集中して教員の話や説明を聞いている。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
  
- 3 この授業において自分は欠席や遅刻をしていない。  
a. 全くしていない b. あまりしていない c. どちらともいえない d. 少々している e. よくしている
  
- 4 この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)。  
a. 週3時間以上 b. 週1時間-3時間未満 c. 週30分-1時間未満 d. 週30分未満 e. していない
  
- 5 この授業は内容が興味深く、魅力的である。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
  
- 6 この授業はシラバスに示された内容を満たしている。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. そう思わない e. シラバスを読んでいない
  
- 7 この授業では指定したテキストを活用している。  
a. よく活用している b. ある程度活用している c. 活用していない  
d. テキストはあるが買っていない e. この授業はテキストを使用していない
  
- 8 教員は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
  
- 9 教員は学生に興味をわくように工夫した進め方をしている。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
  
- 10 教員はこの授業の大切なポイントをきちんと示している。  
a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

裏面へ進んで下さい

# 学生用アンケート用紙 (2)

---

## 平成20年度前期授業満足度アンケート(学生用)

- 11 この授業は私語が多くて受けづらい。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 12 教員は成績評価基準を明確に示しましたか。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 13 教員の板書や資料等の文字は読み取りやすい。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 14 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすい。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 15 この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 16 自分はこの授業が理解できている。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 17 この授業は将来に役立つと思いますか。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 18 この授業では新しいことを学べている。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 19 この授業は総合的に見て満足のいくものである。  
a. 強く思う b. やや思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない
- 20 自分の学力はどの程度だと思いますか。  
a. 上 b. どちらかといえば上 c. 中 d. どちらかといえば下 e. 下
- 21 あなたは普段教室のどのあたりに着席して授業を受けていますか。おおよその位置で結構です。  
5.前方 4.やや前方 3.中間 2.やや後方 1.後方  
(マークシートの21行目の5 4 3 2 1の欄にご記入下さい。9 8 7 6 0にはマークしないで下さい。)
22. 学生にとってよい授業とは何ですか。(あなたにとって一番ウエイトを占める要因をお書きください)  
(マークカードの自由記述欄、もしくはマークカードの裏面に記入して下さい)

# 教員用アンケート用紙 (1)

平成20年度前期授業満足度アンケート(教員用)

名城大学 FD委員会  
学生満足度チーム

FD委員会では昨年度、同一科目を対象に教員アンケートと学生アンケートを同時に実施いたしました。今年度も昨年度と同様の方法にてアンケートを実施し、教員・学生相互の視点から立体的に考察することでよりよい改善策を皆さまにご提案してまいります。  
回答内容につきましてはFD活動以外の目的では使用致しませんので、是非ご協力いただきますようお願い致します。

- はじめに：マークカードにご担当の科目名・実施日・ご氏名を記入してください。
- 回答方法：もっとも当てはまる記号を一つ選び鉛筆でマークしてください。

1 この授業はどのレベルの学生に合わせていますか。

- a. 上位層    b. どちらかといえば上位層    c. 中位層    d. どちらかといえば下位層    e. 下位層

2 この授業を履修する学生の多くは基礎的な知識が十分にあると思う。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

3 この授業を興味深く、魅力的な内容にすることを心がけている。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

4 この授業はシラバスにそって内容を進めている。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

5 この授業ではテキストを活用しながら進めている。

- a. よく活用している    b. ある程度活用している    c. あまり活用していない  
d. 活用していない    e. この授業はテキストを設定していない

6 学生の理解度を確認しながらこの授業を進めている。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

7 学生に興味がわくように工夫した進め方をしている。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

8 この授業の大切なポイントをきちんと示している。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

9 私語に対し、きちんと対応している。

- a. 強くそう思う    b. ややそう思う    c. どちらともいえない    d. あまりそう思わない    e. 全くそう思わない

裏面へ進んで下さい

## 教員用アンケート用紙 (2)

---

平成20年度前期授業満足度アンケート(教員用)

10 学生の学習のプロセスと成果を正しく反映した成績評価を心がけている。

- a. とてもあてはまる b. ややあてはまる c. どちらともいえない d. あまりあてはまらない  
e. 全くあてはまらない

11 板書や資料等の文字は読みやすくするように心がけている。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

12 自分の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思う。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

13 この授業に対して自分は熱意をもって取り組んでいる。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

14 学生はこの授業が理解できていると思う。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

15 この授業は学生の将来に役立つと思う。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

16 この授業では学生は新しいことを学んでいると思う。

- a. 強くそう思う b. ややそう思う c. どちらともいえない d. あまりそう思わない e. 全くそう思わない

17. 教員がよい授業を行うにはどのような要因が必要だと考えられますか。

(マークカードの自由記述欄、もしくはマークカードの裏面に記入して下さい)



# 1 授業科目の集計と項目別改善ポイント

【名城大学FD】平成20年度前期授業満足度アンケート  
集計と項目別改善ポイント

〇〇学部		科目名: 〇△		時間割: 月曜 1時限	
履修登録者数: 400人	回答者数: 300人			教員名: 〇〇 △△	

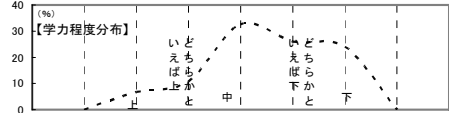
総合満足度	強く+やや	加重平均得点	強く思う	やや思う	どちらともいえない	あまり	全く思わない	無回答
	45.0%	【3.2】	14.9	30.1	25.1	19.9	10.0	0.0

この科目の 自学自習時間 (%)	週3時間以上	週1時間-3時間	週30分-1時間	週30分未満	勉強して いない	無回答
	4.7	10.3	24.5	19.6	40.9	0.0

総合満足度: 選択肢のうち「強く思う」と「やや思う」のスコアの合計  
【】内は加重平均得点。「強く思う」に5点、「全く思わない」に1点を与えた。  
加重平均得点は最大5.0点、最小1.0点(テキストのみ最小0.0点)で表示されます。

着席位置 (%)	前方	やや前方	中間	やや後方	後方	無回答
	21.8	20.0	29.1	20.0	3.6	5.5

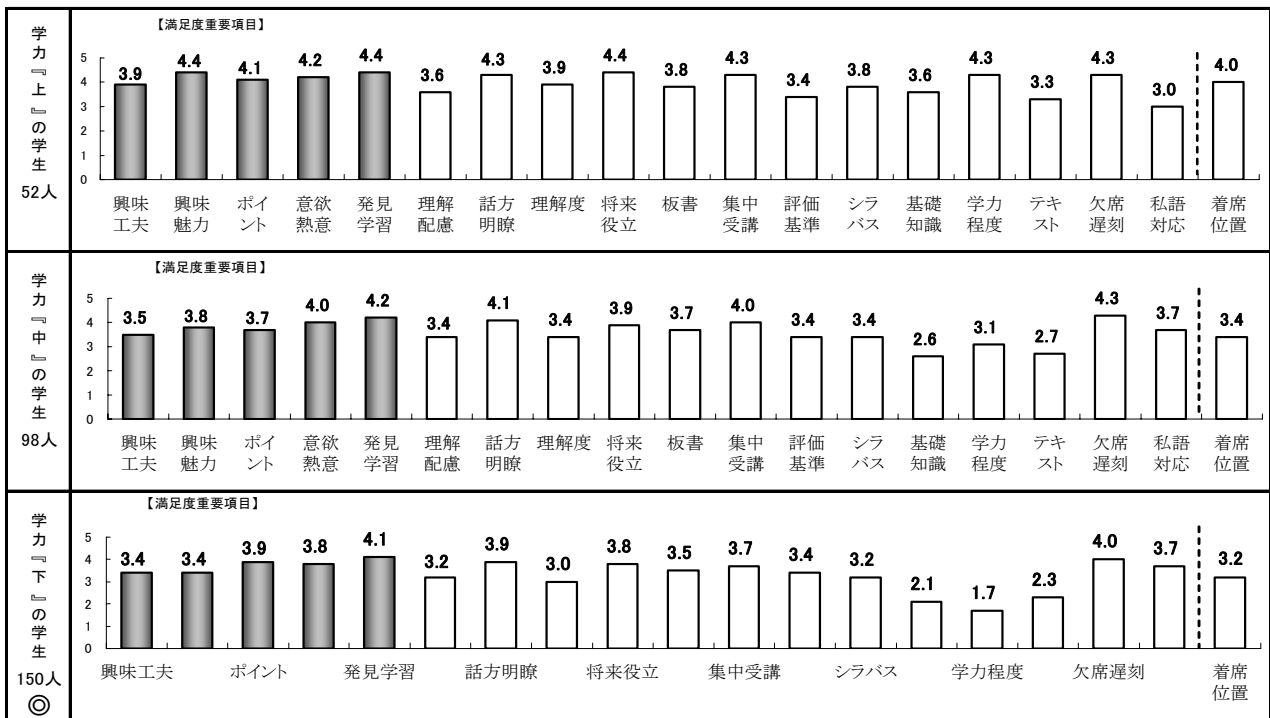
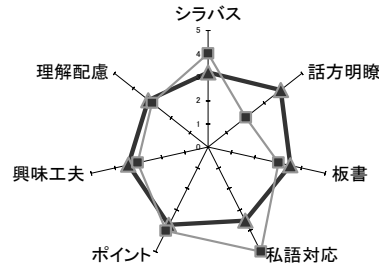
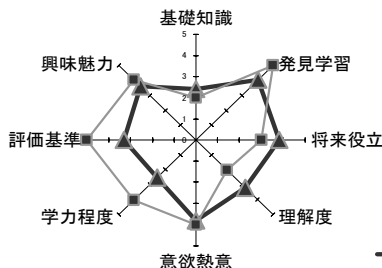
学力程度	対象	上	どちらかといえば上	中	どちらかといえば下	下	無回答
	教員				◎		
	学生割合(人数)	6.7 (20人)	10.7 (32人)	32.7 (98人)	26.0 (78人)	24.0 (72人)	0.0 (0人)
	満足学生の割合	73.1	38.52	63.3 62.98	23.3	35.150	



	学生	教員
基礎知識	2.4	2
興味魅力	3.6	4
評価基準	3.3	5
学力程度	2.5	4
意欲熱意	3.8	4
理解度	3.2	2
将来役立	3.8	3
発見学習	4.0	5

	学生	教員
シラバス	3.2	4
理解配慮	3.2	3
興味工夫	3.4	3
ポイント	3.7	4
私語対応	3.5	5
板書	3.5	3
話方明瞭	3.9	2
集中受講	3.8	
欠席遅刻	4.1	
テキスト	2.5	4

(※) 評価基準の教員設問は「学生の学習のプロセスと成果を正しく反映した成績評価を心がけている」  
(※) 私語対応の学生設問は「私語に対し、きちんと対応している」



上記グラフ=左から満足度と相関が高い順に並んでいます。網掛け項目が満足度との相関が高く重要な項目です(着席位置除く)。網掛けの項目のうちスコアが低い項目が改善の必要な項目です。  
【上】: 学力を「上」もしくは「どちらかといえば上」と回答した学生。【中】: 学力を「中」と回答した学生。【下】: 学力を「どちらかといえば下」もしくは「下」と回答した学生。  
【◎】: 教員が設問1でどのレベルに合わせて授業しているのかその回答の結果の欄に表示。  
着席位置は前方に5点、後方に1点を与えているので高得点の方が前方を表します。

## 2 改善ポイントの見方の例

### 「平成 20 年度 前期科目 集計と項目別改善ポイント」見方の例

- **総合満足度**：学生用アンケート設問 19 における回答のうち「強く思う」と「やや思う」に回答した得点の合計です。加重平均得点は、「強く思う」に 5 点を与え、最小の「全く思わない」に 1 点を与えて計算しています。
- **この科目の自学自習時間**：学生用アンケート設問 4 の集計結果です。授業時間を除いた学習時間数です。
- **学力程度**：(教員欄) 教員用アンケート設問 1 の回答です。どのレベルにあわせて授業をしているかという設問に対する回答を◎で示しています。  
(学生割合欄) 学生アンケート設問 20 の集計結果です。学生が自分の学力をどの程度と考えているかがわかります。上記の◎印項目と学生の割合のピークとが一致している場合は、より多くの学生のレベルにあわせた授業ができているといえます。  
(満足学生の割合欄) 学生アンケート設問 19 の集計結果を学力程度別で示しています。学力程度上中下それぞれのレベルの学生の満足度がわかります。
- **学力程度分布**：学生用アンケート設問 20 の回答状況を図としたものです。どこの学力レベルに焦点をあてたら授業が進めやすいのかがわかります。
- **基礎知識～話方明瞭 (15 項目)**：学生用アンケート、教員用アンケートそれぞれに対応する設問の回答 (学生欄は加重平均得点) を示しています。下限が 1 点、上限が 5 点で表示されます。
- **集中受講～テキスト (3 項目)**：集中受講、欠席遅刻は、教員用アンケートに対応する設問がない項目です。  
テキストは、学生用アンケートと教員用アンケートで回答に対して与えられる得点が異なります。
- **レーダーチャート**：上記 15 項目を図で示しています。学生と教員の感じ方のギャップを見ることができます。学生と教員のグラフが重なれば、教員が学生の状況をよく把握して授業を展開しているといえます。
- **学力程度別満足度グラフ**：学生用アンケート設問 20 の結果により学生の回答を学力レベル上中下に分け、設問別のグラフを作成しました。網掛けの 5 項目については、全学生回答の集計値により満足度との相関が高い項目を示しています。この項目の改善が満足度の向上に効果的です。
- **着席位置**：前方に 5 点、後方に 1 点を与えているので高得点の方が前方を表します。
- **除外項目**：集計除外を希望された項目は「－」で表示されます。  
(なお、無回答の項目も「－」で表示されます。)

### 3 調査結果のまとめ 教員編

横棒グラフは各設問上位2選択肢の合計割合(%)。数表は加重平均値(点)。

	19年後期 (N=323)	20年前期 (N=636)	専任 平均 得点	非常勤 平均 得点	19年 後期
【ポイント】 この授業の大切なポイントを きちんと示している。	94.2	94.2	4.5	4.4	4.5
強く+やや+そう思う					
【興味魅力】 この授業に興味深く、 魅力的な内容にすること 心がけている。	92.9	92.9	4.4	4.5	4.5
強く+やや+そう思う					
【意欲熱意】 この授業に対して自分は 熱意をもって取り組んでいる。	92.1	92.1	4.5	4.6	4.6
強く+やや+そう思う					
【シラバス】 この授業はシラバスに そって内容を進めている。	89.3	89.3	4.3	4.3	4.3
強く+やや+そう思う					
【興味工夫】 学生に興味がわくように 工夫した進め方をしている。	88.4	88.4	4.2	4.3	4.3
強く+やや+そう思う					
【評価基準】 学生の学習のプロセスと 成果を正しく反映した 成績評価を心がけている。	86	86	4.2	4.3	4.2
とても+やや+あてはまる					
【発見学習】 この授業では学生は 新しいことを学んでいると思う。	85.7	85.7	4.3	4.3	4.3
強く+やや+そう思う					
【私語対応】 私語に対し、 きちんと対応している。	82.9	82.9	4.3	4.2	4.4
強く+やや+そう思う					

	19年 後期	非常勤 平均 得点	専任 平均 得点
【理解配慮】 学生の理解度を確認しながら この授業を進めている。	82.2	4.2	4.0
強く+やや+そう思う			
【将来役立】 この授業は学生の 将来に役立つと思う。	80.2	4.2	4.2
強く+やや+そう思う			
【板書】 板書や資料等の文字は 読みやすくするように 心がけている。	78.6	4.3	4.1
強く+やや+そう思う			
【話方明瞭】 自分の話し方は明瞭で 聞き取りやすいと思う。	73.6	4.1	4.0
強く+やや+そう思う			
【テキスト】 この授業ではテキストを 活用しながら進めている。	68.4	3.9	3.5
よく+ある程度活用している			
【理解度】 学生はこの授業が 理解できていると思う。	59.4	3.7	3.5
強く+やや+そう思う			
【基礎知識】 この授業を履修する学生の 多くは基礎的な知識が 十分にあると思う。	19.7	2.7	2.6
強く+やや+そう思う			
【学力程度】 この授業はどのレベルの 学生に合わせていますか。	17.6	3.0	3.1
上位層+どちらからかといえは上位層			

「ポイント」、「興味魅力」、「熱意意欲」など多くの項目は70%を越え、FDに関する教員の意識の高さ、努力がうかがえる。教員からみた学生の「基礎知識」、「学力程度」は前回同様20%以下と低い。前回との比較では、各項目とも大きな差は見られなかった。専任と非常勤の差はほとんどなく、「理解配慮」、「板書」では非常勤のスコアが上回った。

### 3 調査結果のまとめ 学生編

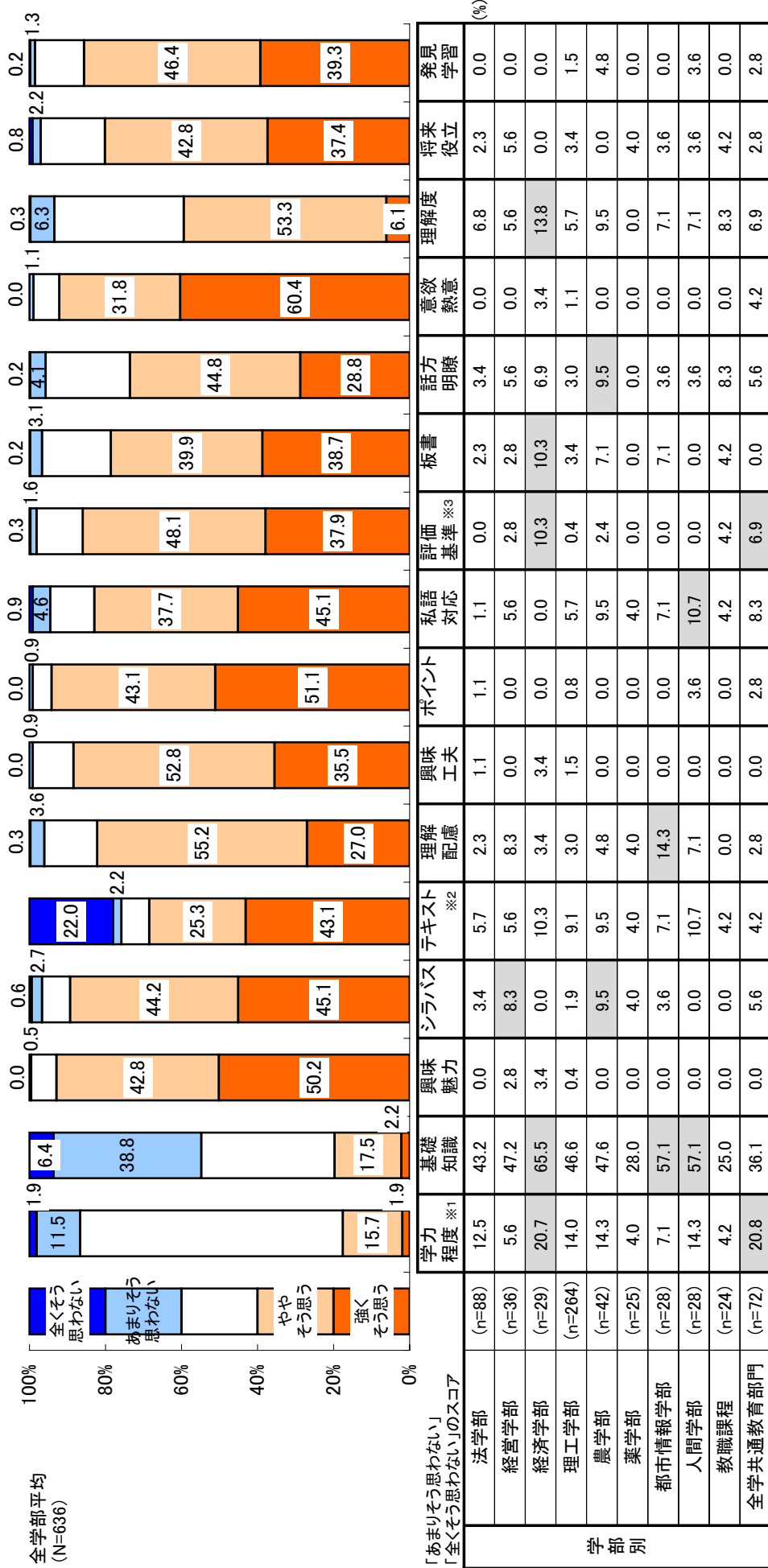
横棒グラフは各設問上位2選択肢の合計割合(%)。数表は加重平均値(点)。

19年後期 20年前期 (N=44821)	専任 平均 得点	非常勤 平均 得点	19年 後期 得点	横棒グラフ	
				(%)	(%)
【欠席遅刻】 この授業において自分は 欠席や遅刻をしていない。	4.2	4.1	4.3	76.4	48.2
【発見学習】 この授業では 新しいことを学べている。	3.8	3.7	3.8	65.0	47.8
【集中受講】 授業中は、私語などをせず 集中して教員の話や説明を 聞いている。	3.8	3.7	3.9	64.6	47.2
【ポイント】 教員はこの授業の大切な ポイントをきちんと示している。	3.6	3.6	3.7	59.2	46.0
【意欲熱意】 この授業に対する 教員の意欲や熱意を感じる。	3.6	3.7	3.7	58.2	45.7
【話方明瞭】 教員の話し方は 明瞭で聞き取りやすい。	3.5	3.6	3.7	56.2	44.3
【将来役立】 この授業は将来に 役立つと思いますか。	3.5	3.5	3.6	53.9	38.5
【板書】 教員の板書や資料等の 文字は読み取りやすい。	3.4	3.5	3.6	52.6	37.4
【私語対応】 この授業は 私語が多くて受けづらい。	3.5	3.4	3.5	52.6	23.0
【テキスト】 この授業では指定した テキストを活用している。	2.2	2.5	2.2	52.1	14.4
【授業満足】 この授業は総合的に見て 満足のいくものである。	3.4	3.4	3.5	48.2	48.2
【興味魅力】 この授業は内容が興味深く、 魅力的である。	3.4	3.4	3.4	47.8	47.8
【評価基準】 教員は成績評価基準を 明確に示しましたか。	3.4	3.5	3.5	47.2	47.2
【シラバス】 この授業はシラバスに 示された内容を満たしている。	3.1	3.1	3.2	46.0	46.0
【理解配慮】 教員は学生の理解度を 確認しながらこの授業を 進めている。	3.3	3.3	3.4	45.7	45.7
【興味工夫】 教員は学生に興味があつたように 工夫した進め方をしている。	3.3	3.3	3.4	44.3	44.3
【理解度】 自分はこの授業が 理解できている。	3.1	3.2	3.2	38.5	38.5
【着席位置】 あなたは普段教室のどのあたりに 着席して授業を受けていますか。	3.2	3.1	—	37.4	37.4
【基礎知識】 この授業を履修するにあたり、 自分には基礎的な知識が 十分にあると思う。	2.7	2.7	2.7	23.0	23.0
【学力程度】 自分の学力はどの程度だと 思いますか。	2.6	2.6	2.6	14.4	14.4
【自学自習時間】 この授業に対する1週間あたりの 勉強時間(授業時間除く)。	33.6(分)	31.9(分)	30.8(分)	12.6	12.6

「発見学習」、「集中受講」、「ポイント」など多くの項目は50%を越え、学生も教員の努力を評価している。「欠席遅刻」、「集中受講」のポイントも高く、学生は授業にまじめに取り組んでいる。しかしながら、「基礎知識」、「学力程度」は20%以下と低い。

# 4 学部別改善ポイント 教員編

学部別改善ポイントを比較すると、学部ごとの教員の特徴がわかる。たとえば、「この授業を履修する学生の多くは基礎的な知識が十分でない」と感じている教員の割合は、経済学部、人間学部、都市情報学部、都市情報学部が多いようだ。



網かけは、より改善が必要な項目(全体より5ポイント以上)

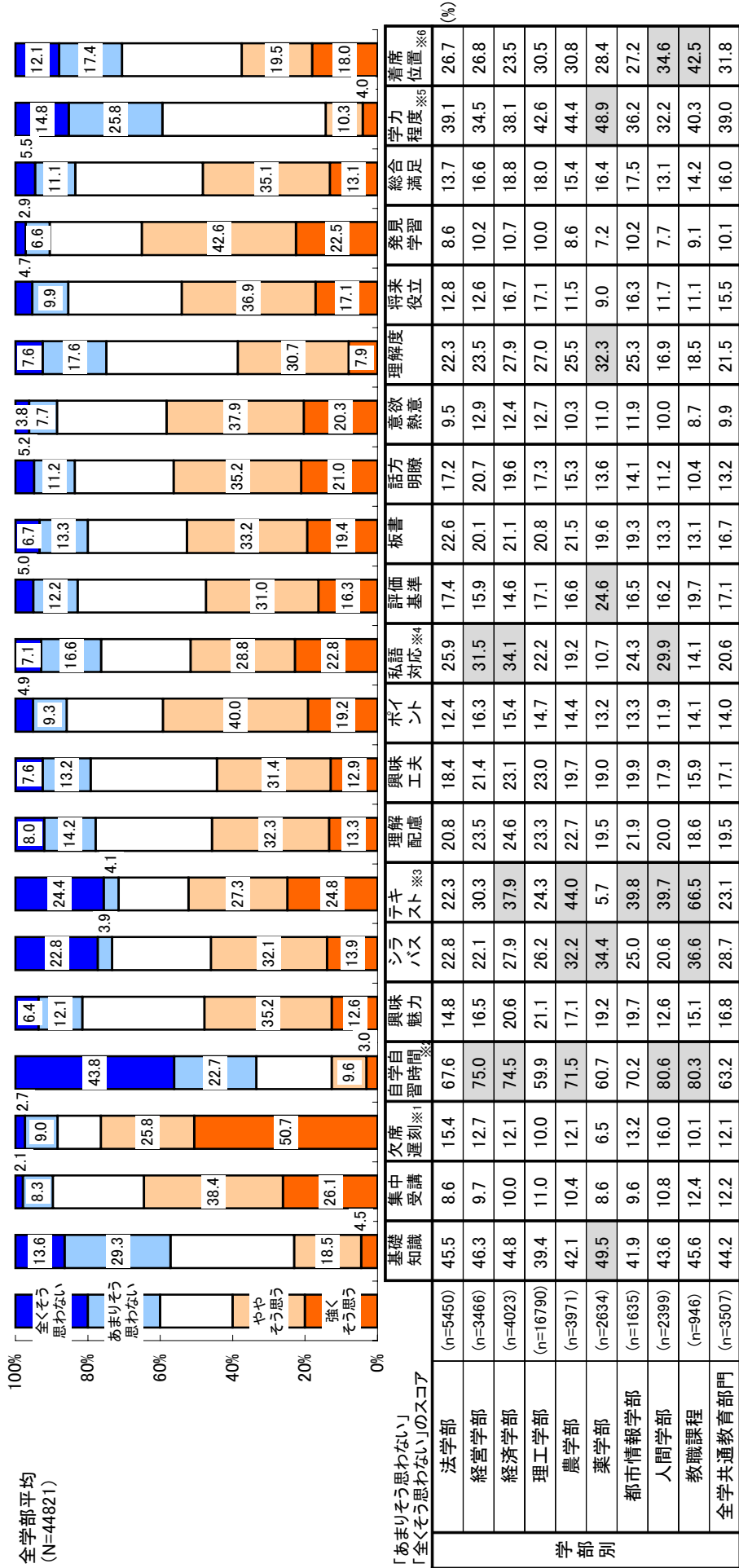
※1 「学力程度」の選択肢は「上位層」「中位層」「下位層」「どちらかといえば下位層」「下位層」、そのうち数表で使用しているスコアは「どちらかといえば下位層」+「下位層」

※2 「テキスト」の選択肢は「よく活用している」「あまり活用している」「活用していない」「この授業はテキストを設定していない」、そのうち数表で使用しているスコアは「あまり活用していない」+「活用していない」

※3 「評価基準」の選択肢は「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」

# 4 学部別改善ポイント 学生編

名城大学の学生の学びの現状を見てみよう。「基礎知識」、「学力程度」、「自学自習時間」に弱点がありそうだ。特に「自学自習時間」が0分の学生が40%以上いるという現実は大きな問題である。



※1 「遅刻火席」の選択肢は「全く思わない」「あまり思わない」「どちらともいえない」「少々思っている」「よく思っている」「少々思っている」+「よく思っている」

※2 「自学自習時間」の選択肢は「3時間以上」「3時間未満」「1時間未満」「30分未満」「30分未満」+「30分未満」+「30分未満」+「30分未満」

※3 「テキスト」の選択肢は「よく活用している」「活用している」「活用していない」「テキストはあるが買っていない」「この授業はテキストは使用していない」、そのうち数表に使用しているスコアは「買っていない」+「使用していない」

※4 「私語対応」の質問は私語が多くて受けづらくなったので、数表に使用の数値は「強く思う」+「やや思う」のスコア

※5 「学力程度」の選択肢は「上」「どちらかといえば上」「中」「どちらかといえば下」「下」、そのうち数表に使用しているスコアは「どちらかといえば下」+「下」

※6 「着席位置」の選択肢は「前方」「やや前方」「中間」「やや後方」「後方」、そのうち数表に使用しているスコアは「やや後方」+「後方」

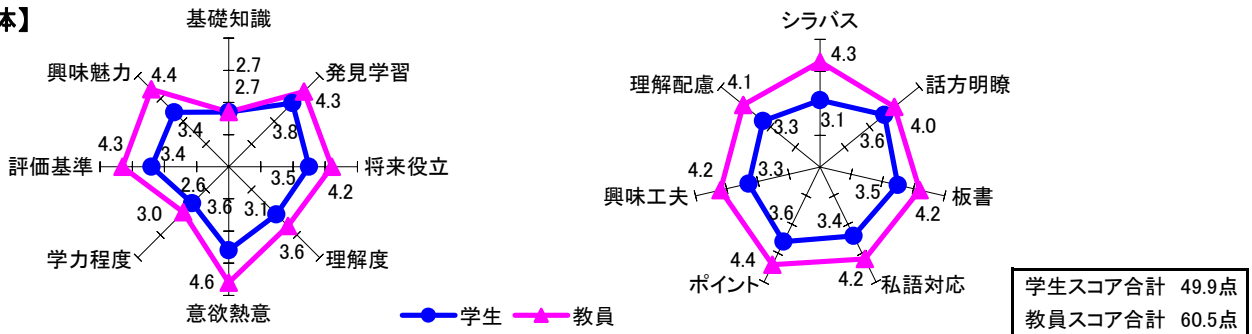
網かけは、より改善が必要な項目(全体より5ポイント以上)

# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

教員の自己評価と学生評価を比べてみると、授業でのギャップが見えてくる。「興味魅力」でギャップが大きいことが分かる。法学部は学生側の「テキスト」の項目で前回に比べ改善が見られた。

## 【全体】

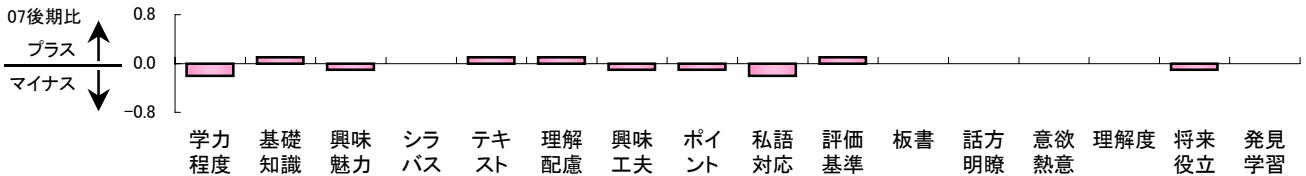


### <前回との比較:教員>

(07後 n=323)

08前 n=636)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

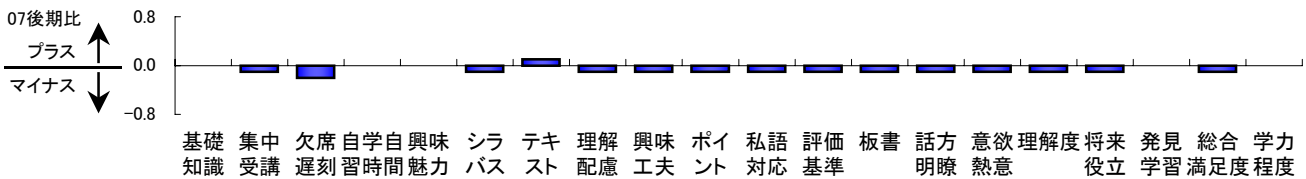


### <前回との比較:学生>

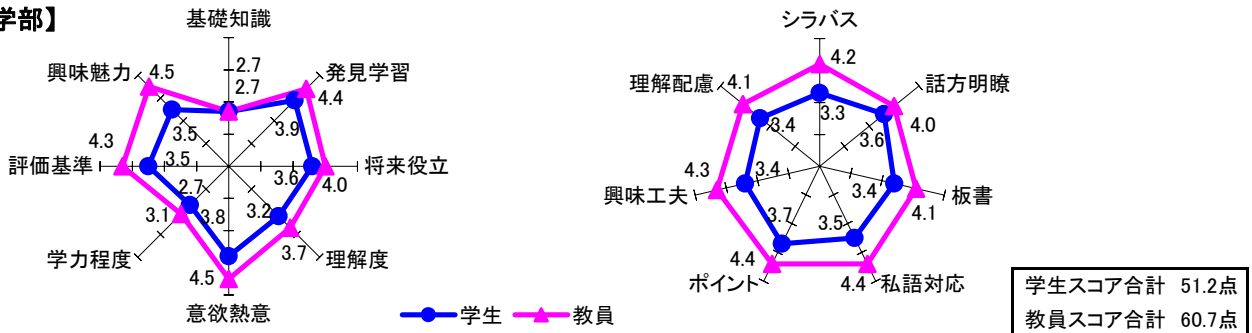
(07後 n=28365)

08前 n=44821)

【スコアは各項目の加重平均値の差】



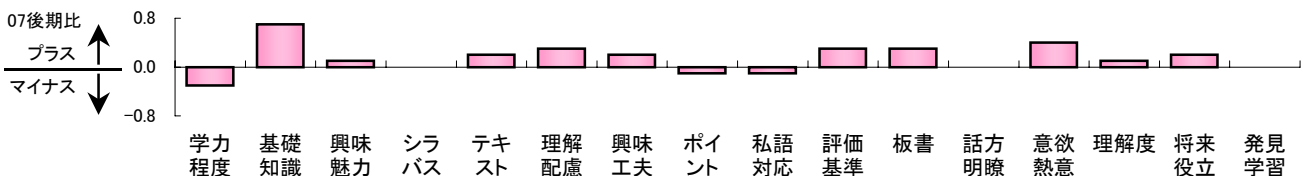
## 【法学部】



### <前回との比較:教員>

(07後 n=22)

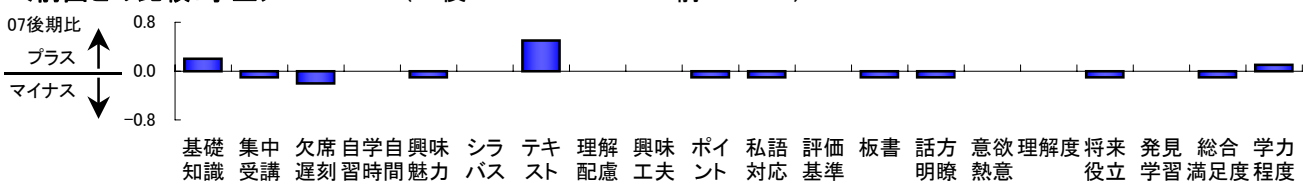
08前 n=88)



### <前回との比較:学生>

(07後 n=2718)

08前 n=5450)

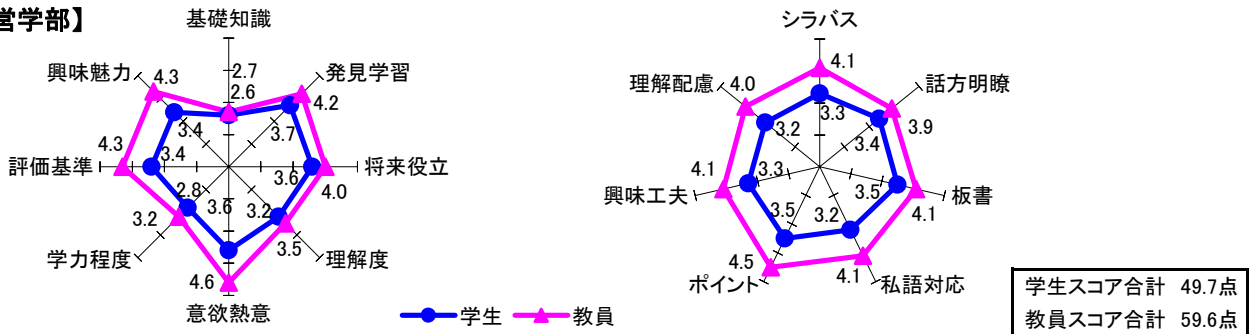


# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

経営学部では、前回と比べて学生側の「私語対応」などの項目のスコアが低下している。経済学部でも前回に比べ、学生側の「シラバス」、「理解配慮」などの項目のスコアが低下している。

## 【経営学部】

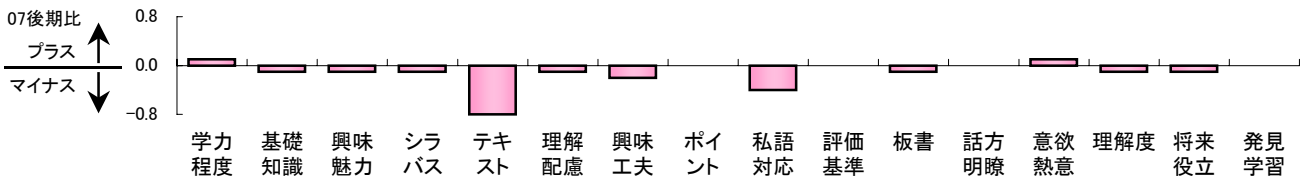


### <前回との比較:教員>

(07後 n=25)

08前 n=36)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

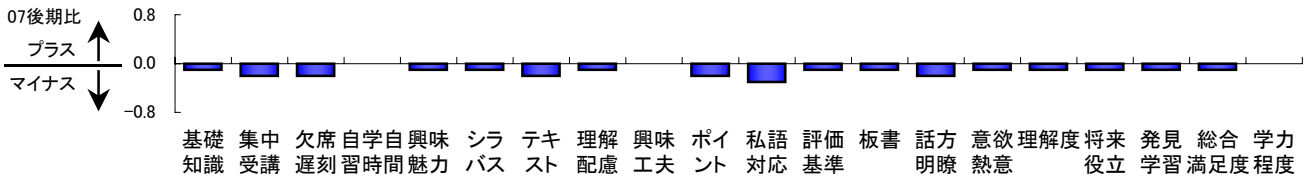


### <前回との比較:学生>

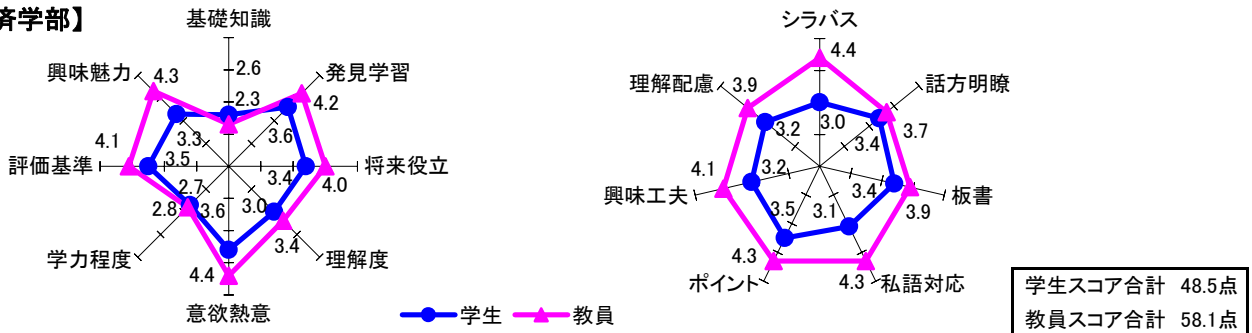
(07後 n=2152)

08前 n=3466)

【スコアは各項目の加重平均値の差】



## 【経済学部】

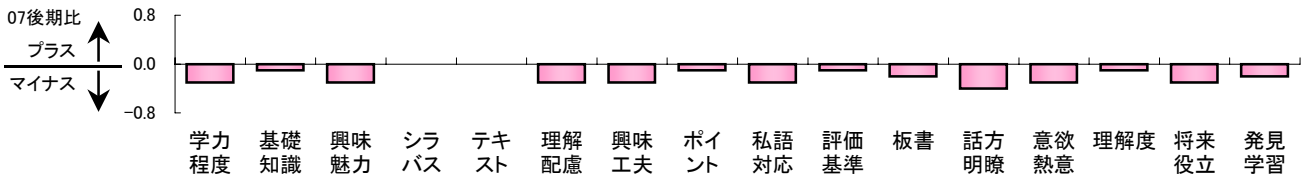


### <前回との比較:教員>

(07後 n=20)

08前 n=29)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

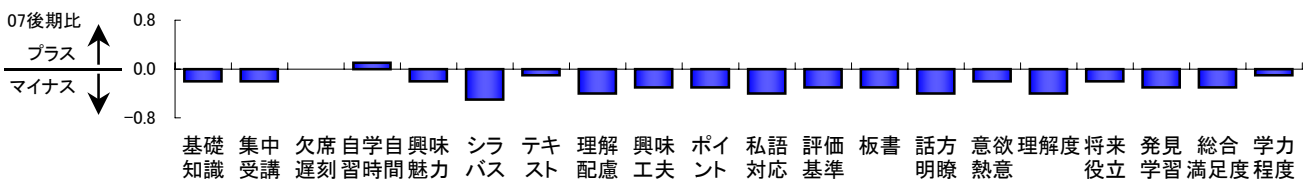


### <前回との比較:学生>

(07後 n=2038)

08前 n=4023)

【スコアは各項目の加重平均値の差】



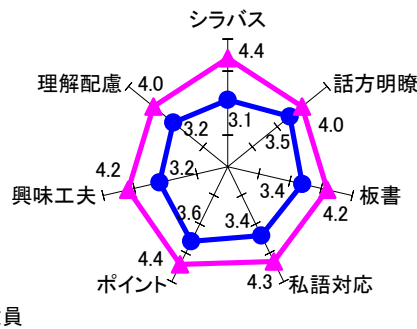
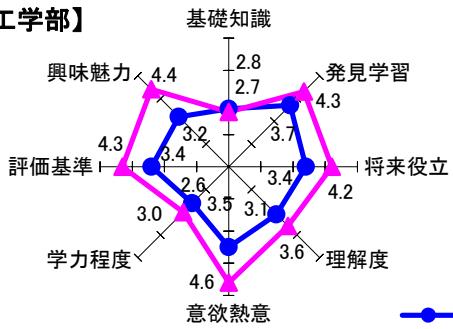


# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

理工学部では、前回に比べ、学生側の「理解配慮」などの項目のスコアが低下した。農学部では学生の「自学自習時間」が増えているが、「私語対応」のスコアは低下した。

## 【理工学部】



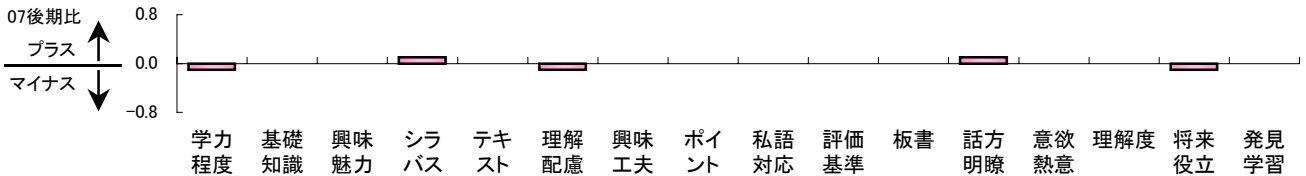
学生スコア合計 49.1点  
教員スコア合計 60.6点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=131)

08前 n=264

【スコアは各項目の加重平均値の差】

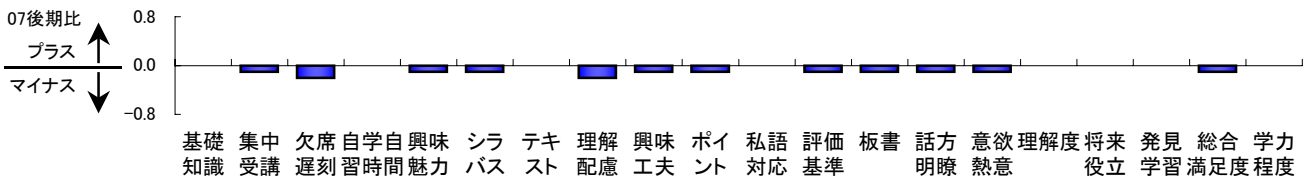


### <前回との比較:学生>

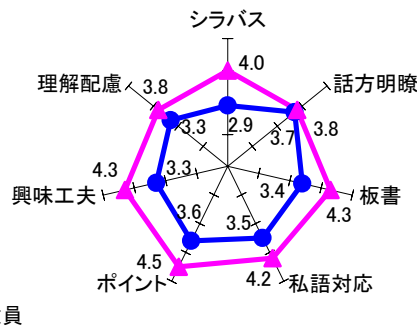
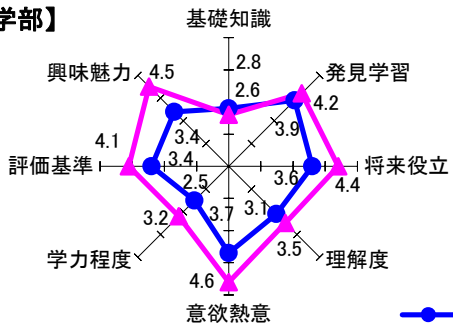
(07後 n=9689)

08前 n=16790

【スコアは各項目の加重平均値の差】



## 【農学部】



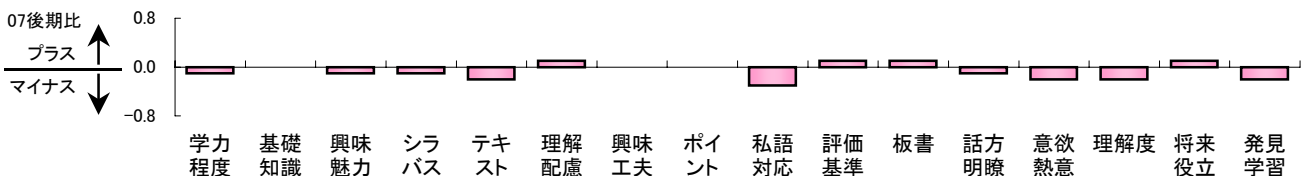
学生スコア合計 50.1点  
教員スコア合計 60.0点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=32)

08前 n=42

【スコアは各項目の加重平均値の差】

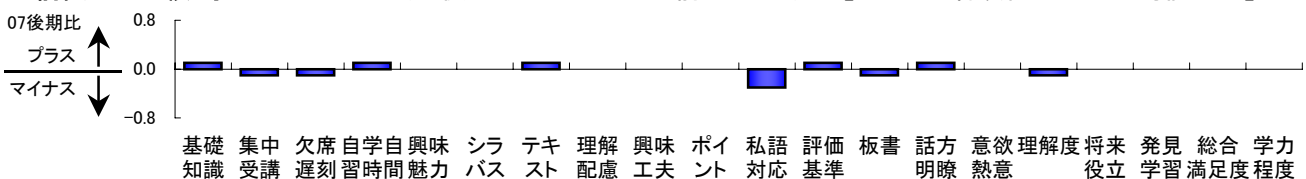


### <前回との比較:学生>

(07後 n=3114)

08前 n=3971

【スコアは各項目の加重平均値の差】

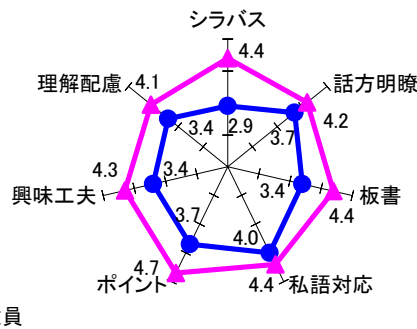
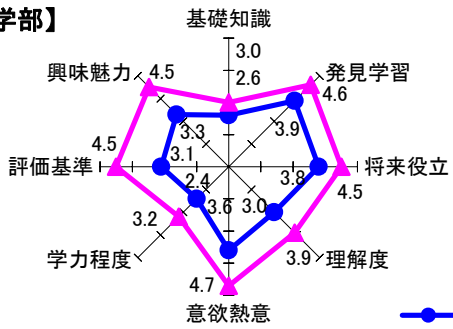


# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

薬学部は、前回との差は小さいが、教員と学生のギャップが他学部比べて大きい。都市情報学部では、学生側の「テキスト」、「総合満足度」などの項目のスコアが低下した。

## 【薬学部】



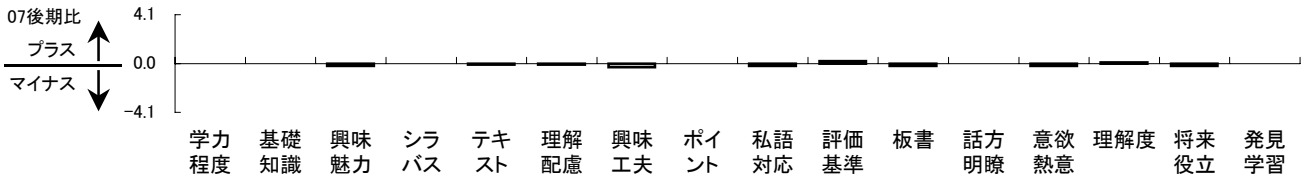
学生スコア合計 50.2点  
教員スコア合計 63.4点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=41)

08前 n=25)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

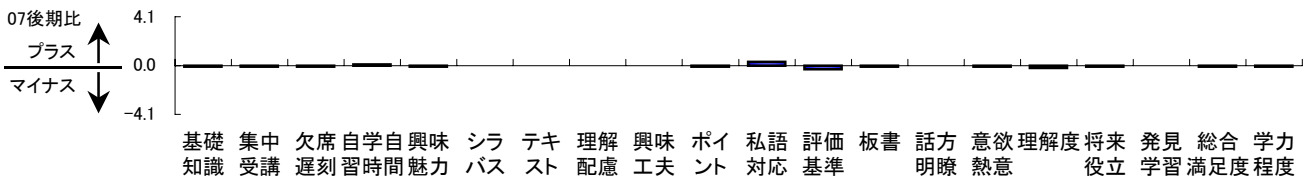


### <前回との比較:学生>

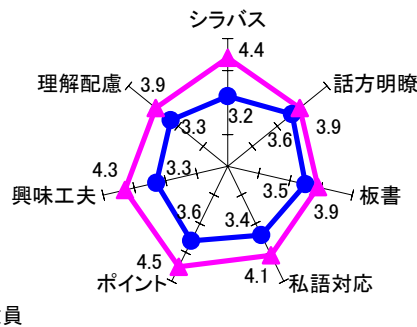
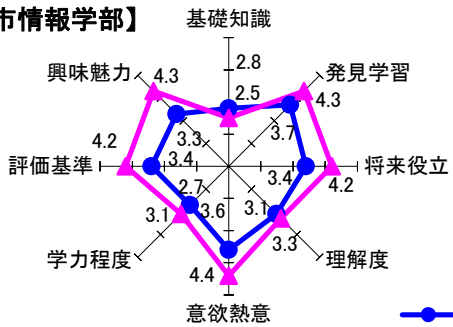
(07後 n=4600)

08前 n=2634)

【スコアは各項目の加重平均値の差】



## 【都市情報学部】



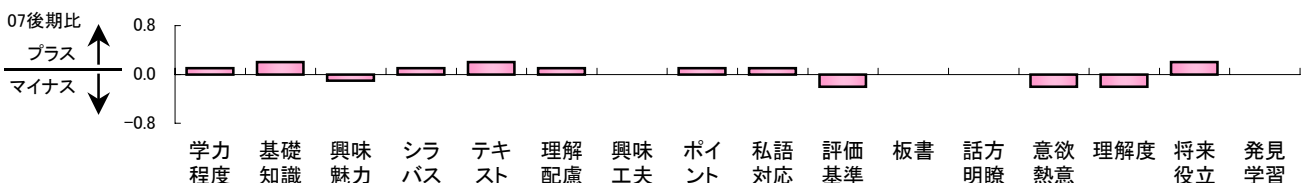
学生スコア合計 49.9点  
教員スコア合計 59.3点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=24)

08前 n=28)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

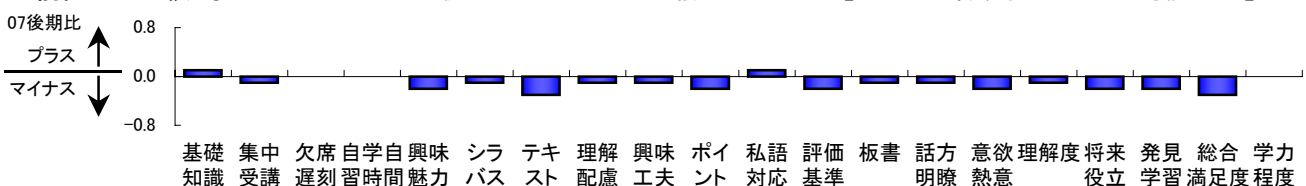


### <前回との比較:学生>

(07後 n=1487)

08前 n=1635)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

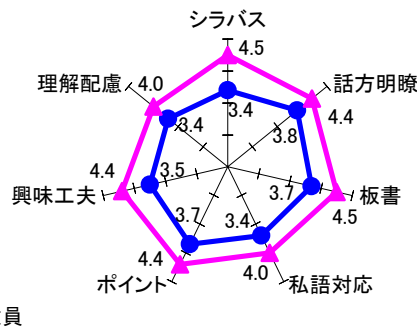
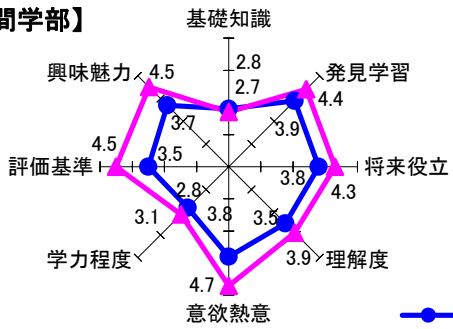


# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

人間学部は学生側の「テキスト」という項目のスコアは上昇したが、「評価基準」などの項目のスコアが減少した。教職課程は学生側の「自学自習時間」、「私語対応」のスコアは増加したが、「ポイント」、「意欲熱意」、「理解度」などの項目は低下した。

## 【人間学部】



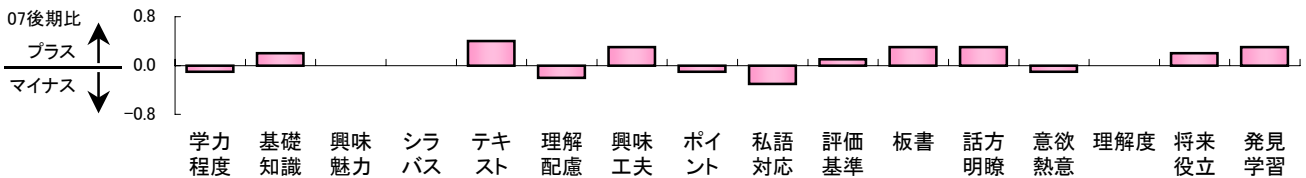
学生スコア合計 52.7点  
教員スコア合計 62.3点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=17)

08前 n=28

【スコアは各項目の加重平均値の差】

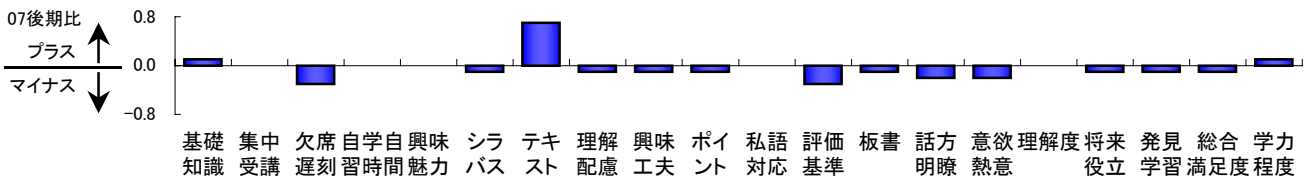


### <前回との比較:学生>

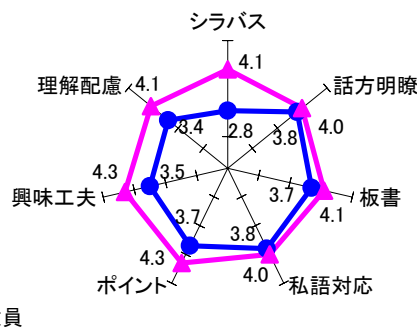
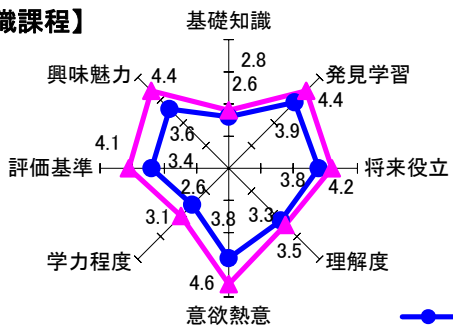
(07後 n=1732)

08前 n=2399

【スコアは各項目の加重平均値の差】



## 【教職課程】



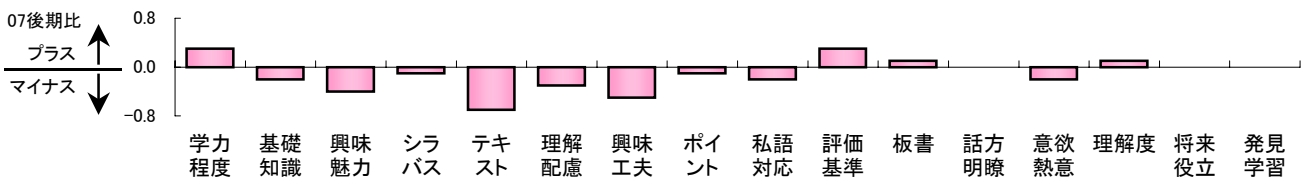
学生スコア合計 51.7点  
教員スコア合計 60.0点

### <前回との比較:教員>

(07後 n=5)

08前 n=24

【スコアは各項目の加重平均値の差】

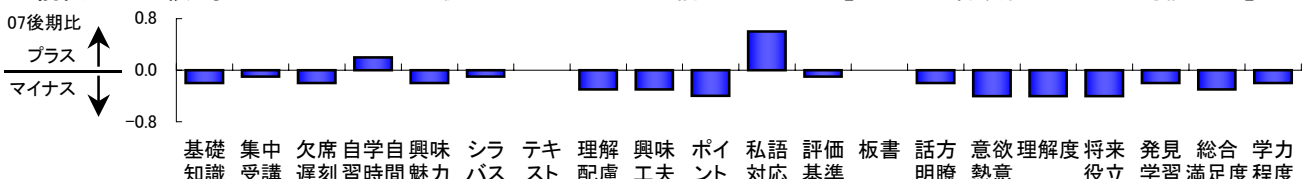


### <前回との比較:学生>

(07後 n=366)

08前 n=946

【スコアは各項目の加重平均値の差】

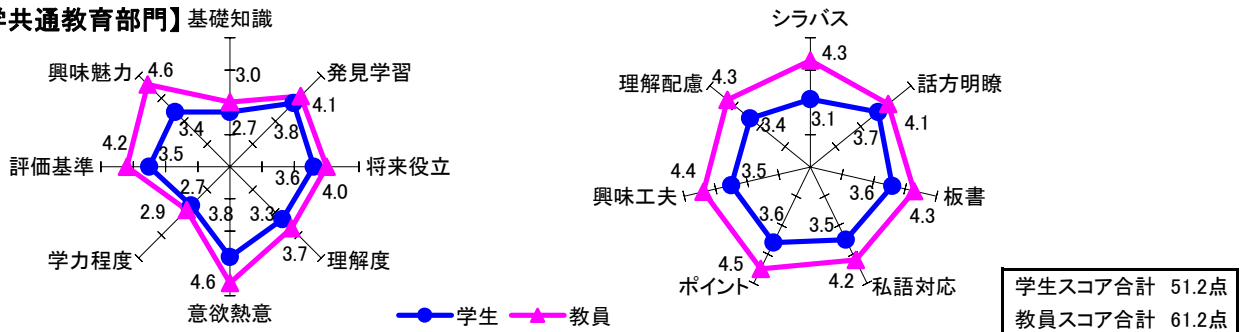


# 5 教員の自己評価と学生評価との比較

【教員】 【学生】

全学共通教育は学生側の「自学自習時間」、「テキスト」、「興味工夫」などのスコアが上昇した。

## 【全学共通教育部門】基礎知識

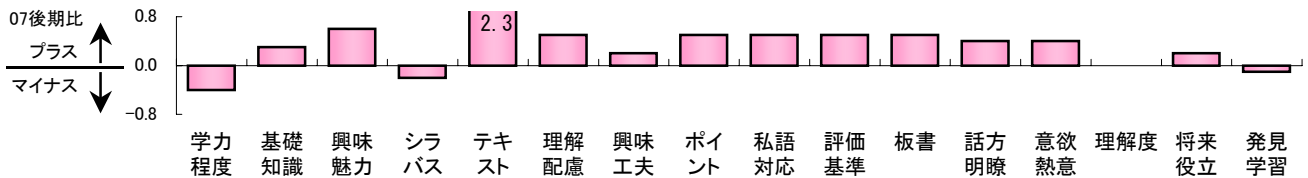


## <前回との比較:教員>

(07後 n=6)

08前 n=72)

【スコアは各項目の加重平均値の差】

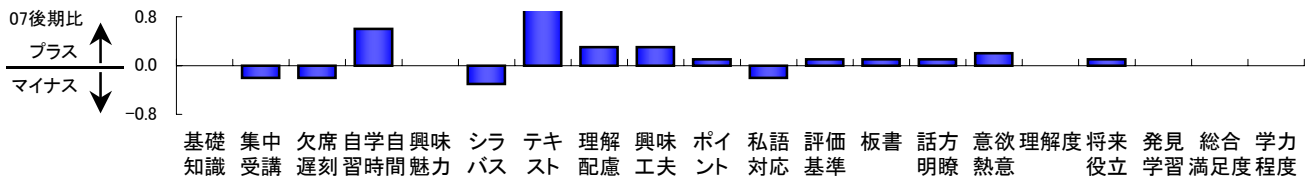


## <前回との比較:学生>

(07後 n=469)

08前 n=3507)

【スコアは各項目の加重平均値の差】



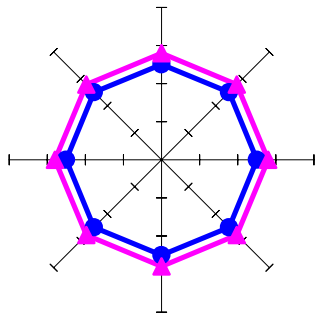
## 6 学生と教員の評価のちがいと授業満足度との関係 【授業】

学生スコアの総得点が高く、教員とのギャップが少ないほど、満足度が高くなることがわかった。満足度が最も高いパターンAの授業は、全体の約35%ある。

学生と教員で比較できる15項目について、評価のちがいが満足度にどの程度影響しているのかを確認した。集計対象は教員調査に無回答のない568授業。

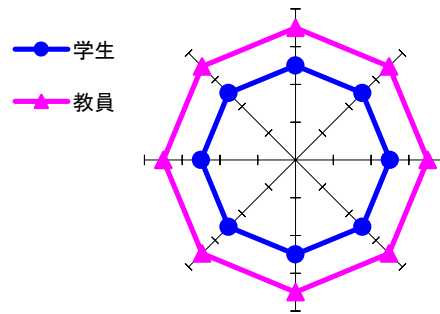
下記のチャートは4分類をわかりやすく表記するためのイメージ図です。

学生スコアの大小は各授業の平均値を基準とした。学生・教員の差の大小についても両者の差の平均値を基準とした。



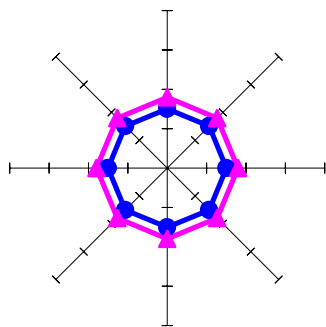
**パターンA**

学生スコアが大きく、学生・教員の差が小さい  
199授業/568授業



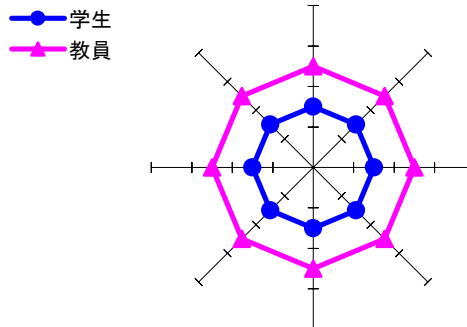
**パターンB**

学生スコアが大きく、学生・教員の差が大きい  
101授業/568授業



**パターンC**

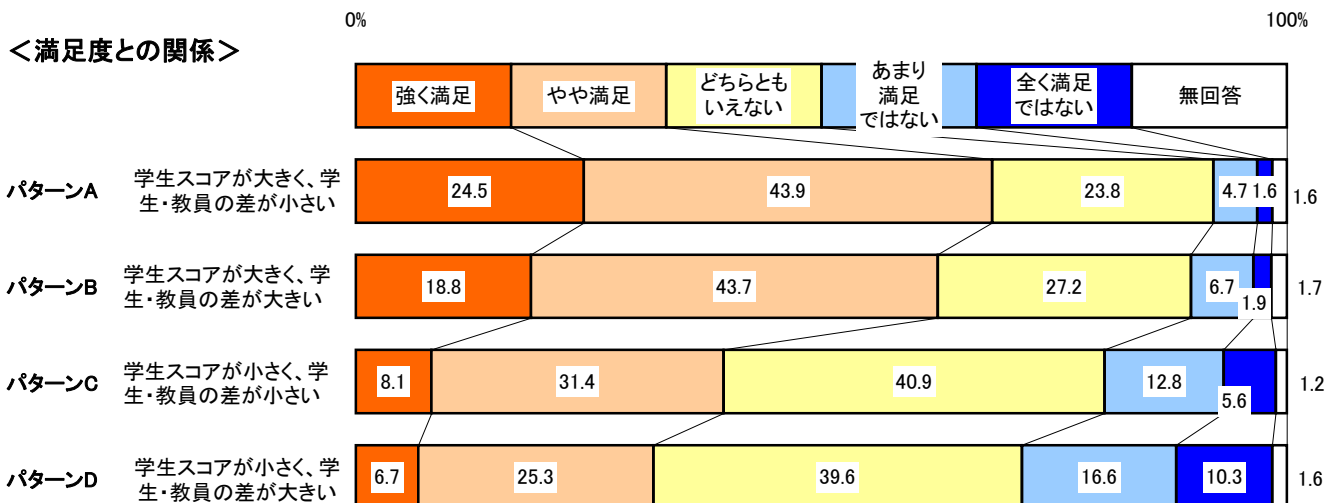
学生スコアが小さく、学生・教員の差が小さい  
83授業/568授業



**パターンD**

学生スコアが小さく、学生・教員の差が大きい  
185授業/568授業

### <満足度との関係>



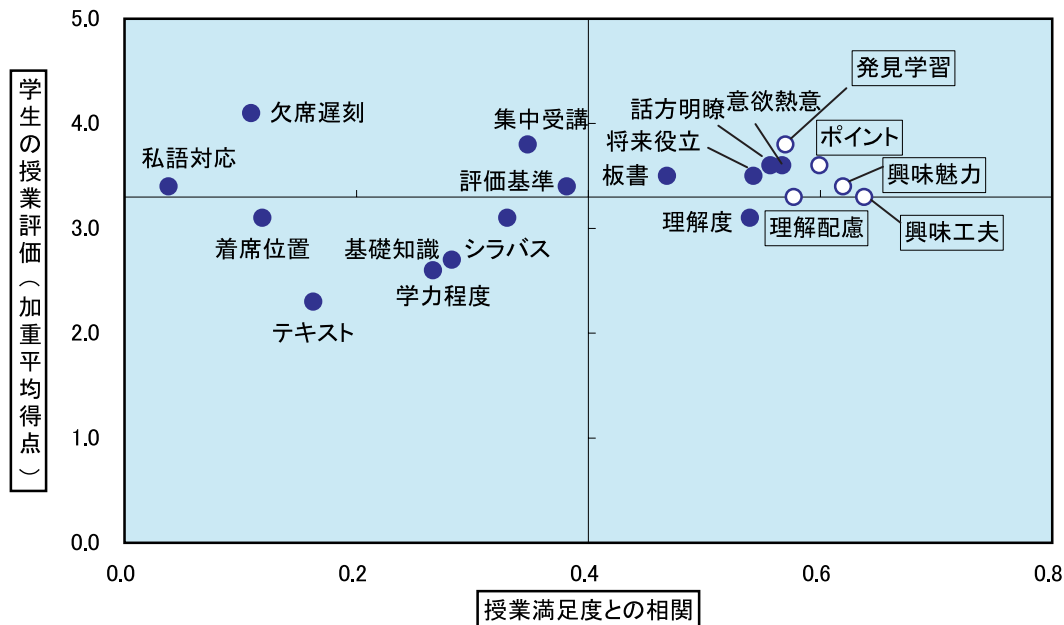
## 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

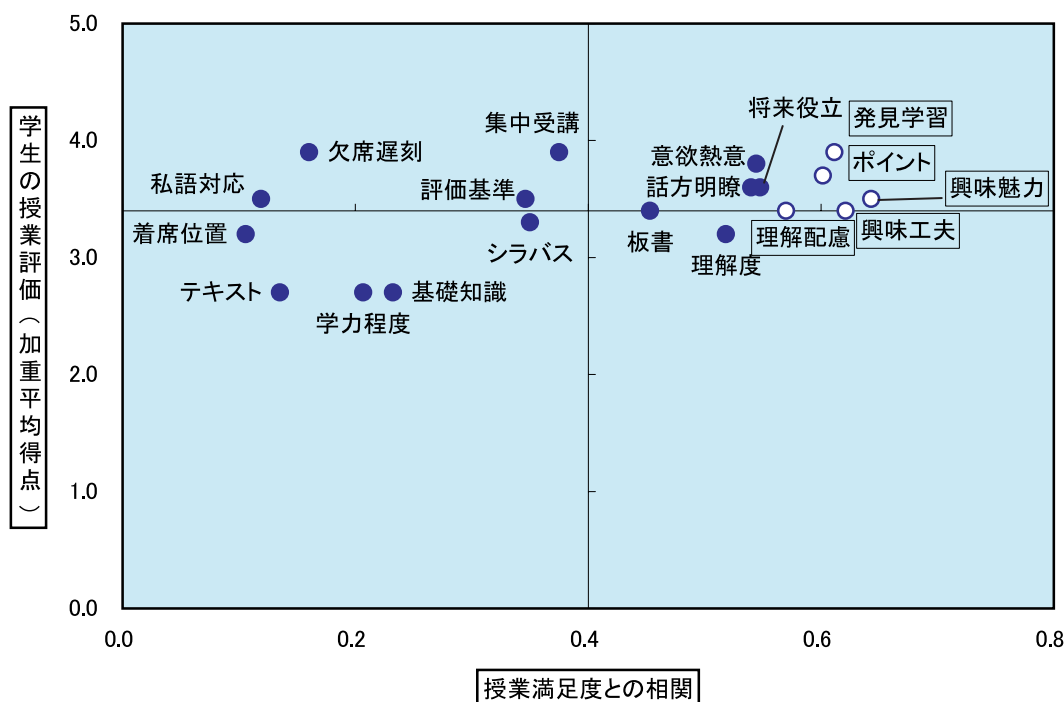
大学全体では「興味工夫」、「興味魅力」、「ポイント」、「理解配慮」、「発見学習」の項目がグラフの右側に位置し、特に満足度との相関が高いトップ5になることがわかる。また、これらの項目のスコアも一般に高い。以降では、各学部に関して、満足度との相関の高い項目に注目して傾向をみてゆく。法学部では、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足度のいくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

### <全体>



### <法学部>



※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸: 授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸: 各項目の平均点とした。各学部により異なる。

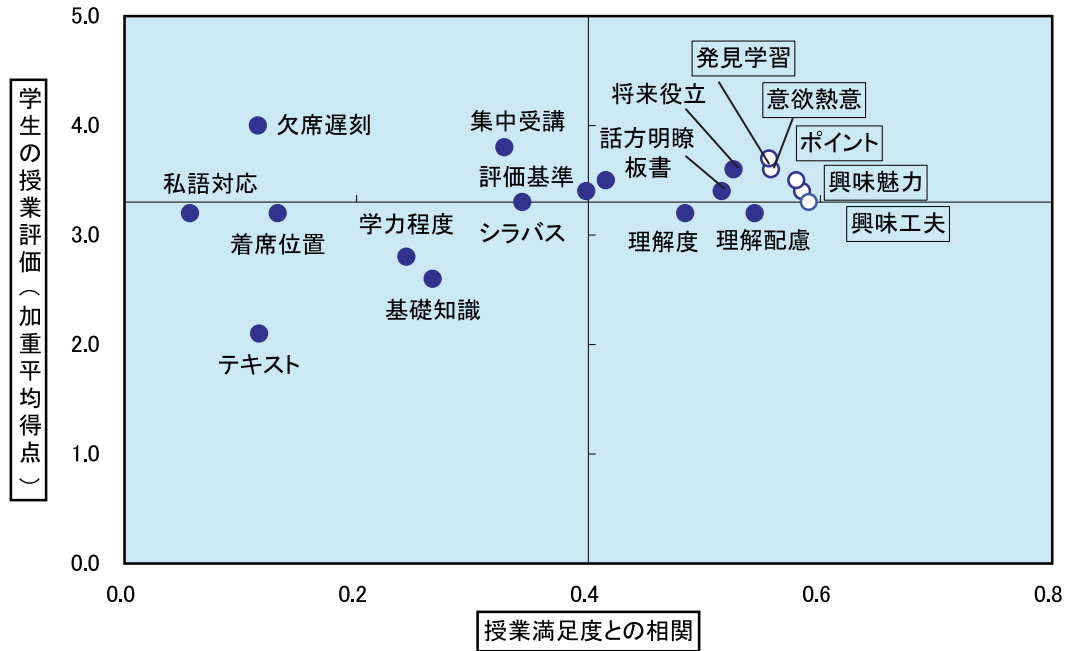
# 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

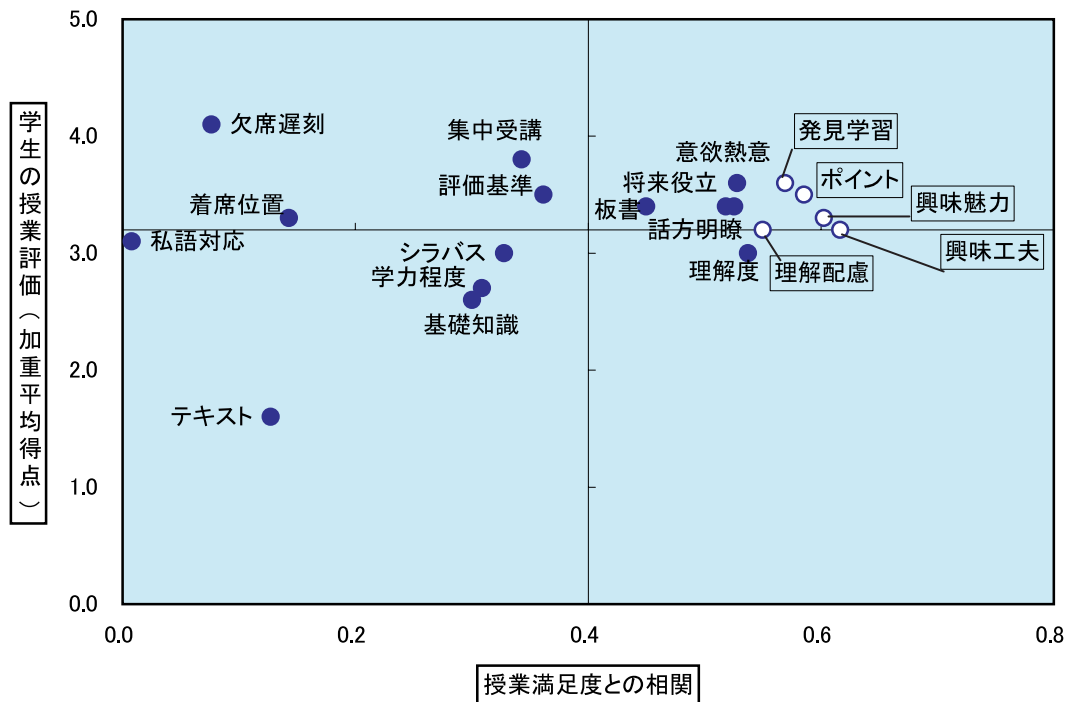
経営学部では、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「意欲熱意」のスコアが高い。経済学部も、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「ポイント」のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足いくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

## <経営学部>



## <経済学部>



※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸: 授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸: 各項目の平均点とした。各学部により異なる。

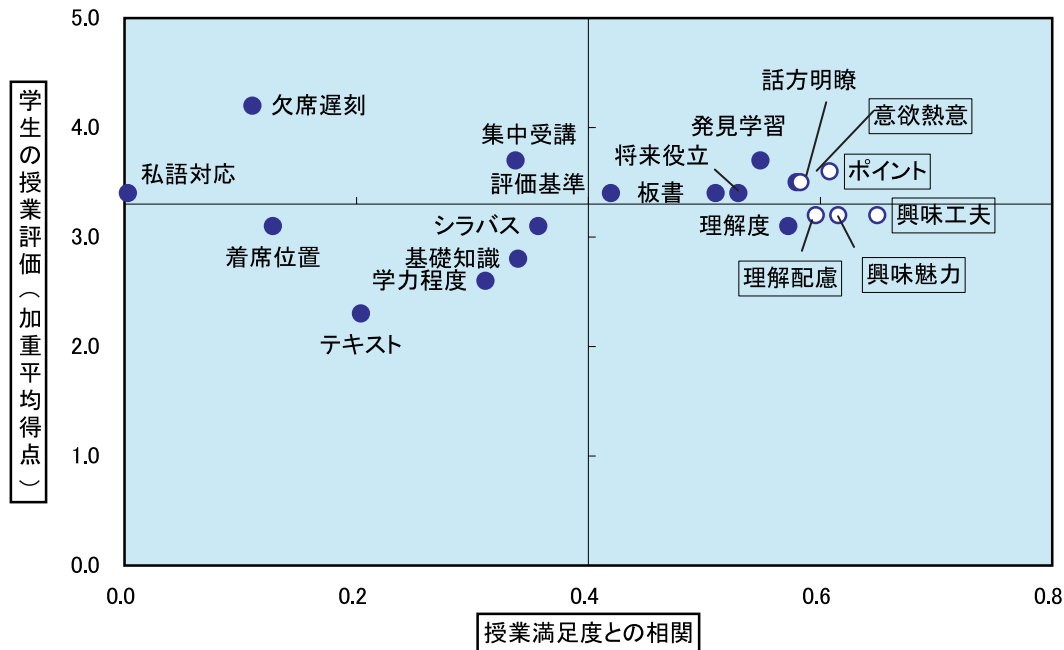
# 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

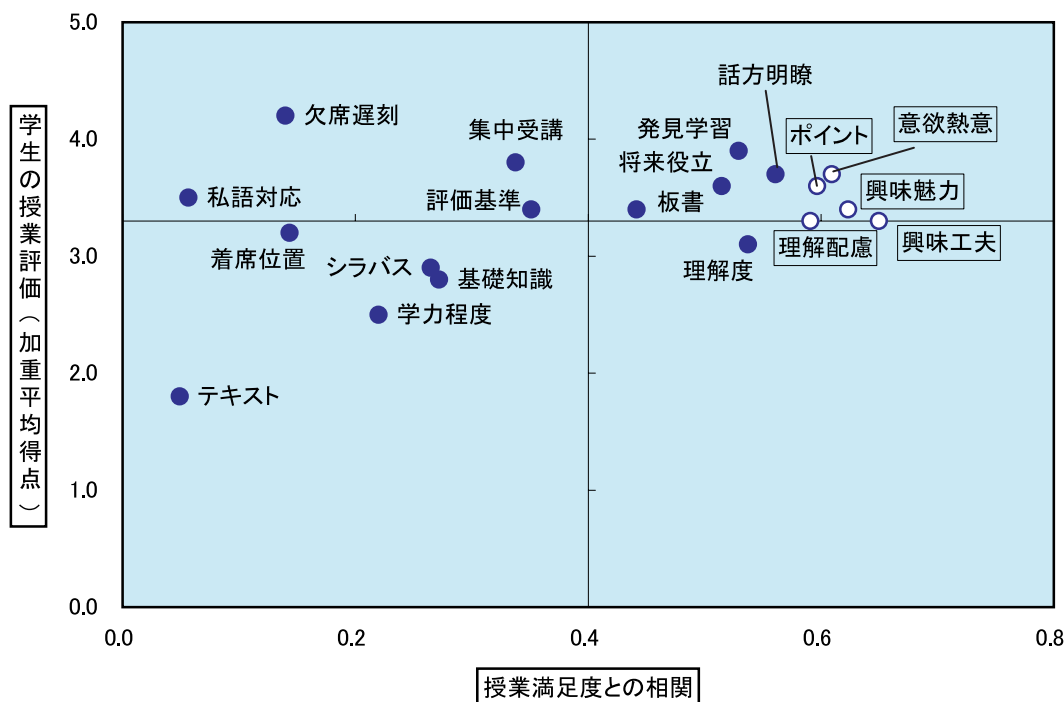
理工学部では、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「ポイント」、「意欲熱意」のスコアが高い。農学部では、「興味工夫」、「興味魅力」が同様に満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「意欲熱意」、「ポイント」のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足度のいくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

## <理工学部>



## <農学部>



※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸: 授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸: 各項目の平均点とした。各学部により異なる。



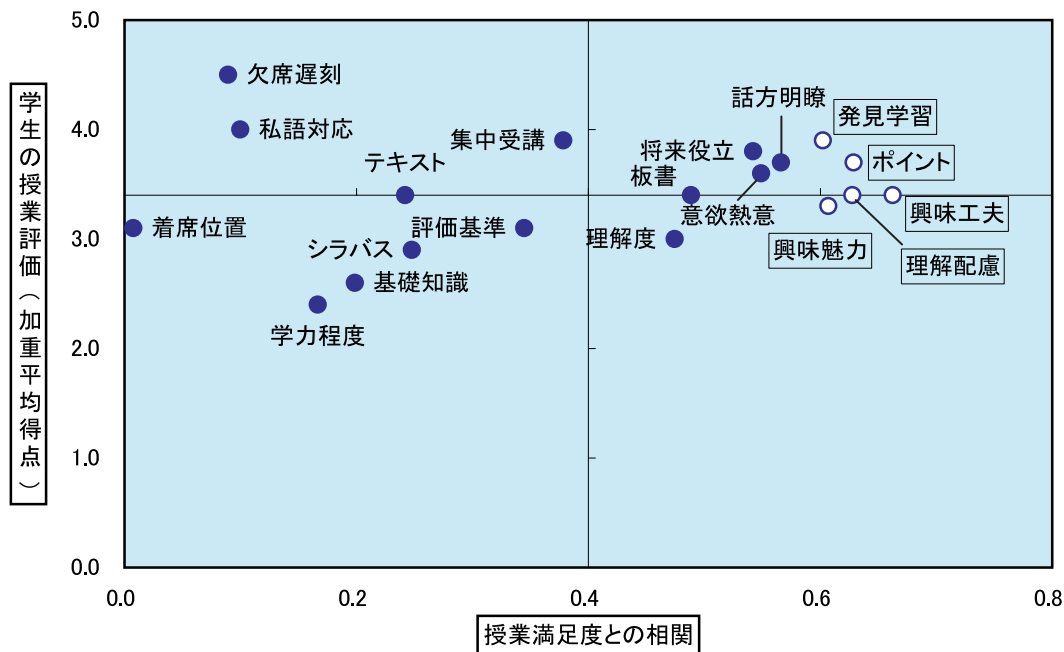
# 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

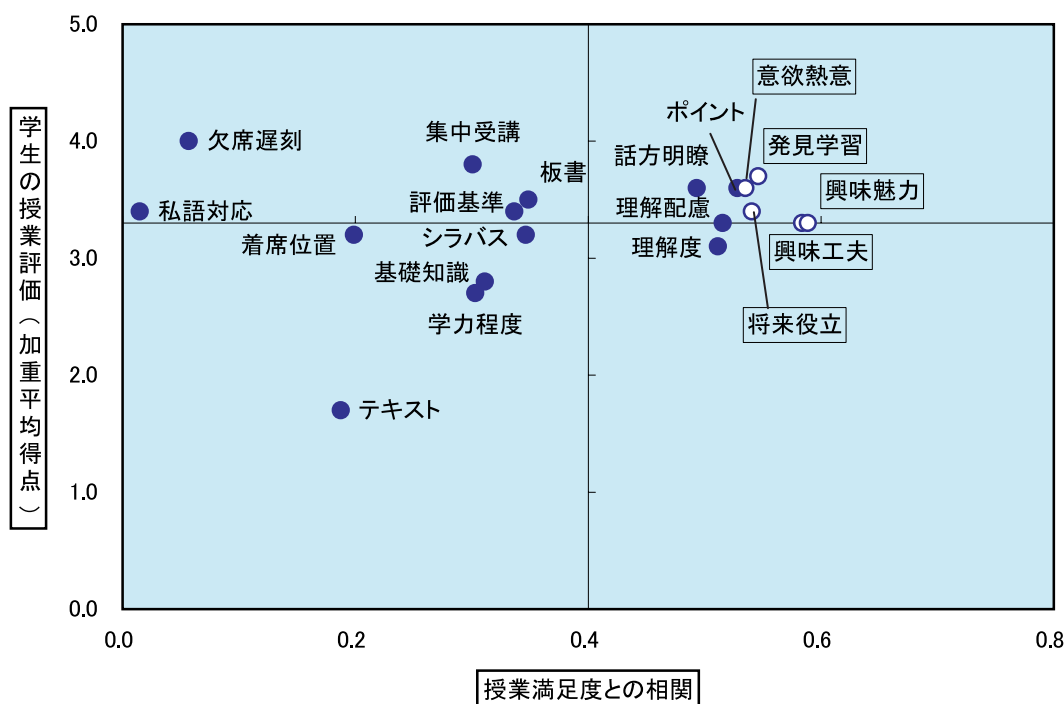
薬学部では、「興味工夫」、「ポイント」、「理解配慮」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「ポイント」の項目のスコアが高い。都市情報学部では、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「意欲熱意」の項目のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足のいくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

## <薬学部>



## <都市情報学部>



※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸: 授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸: 各項目の平均点とした。各学部により異なる。

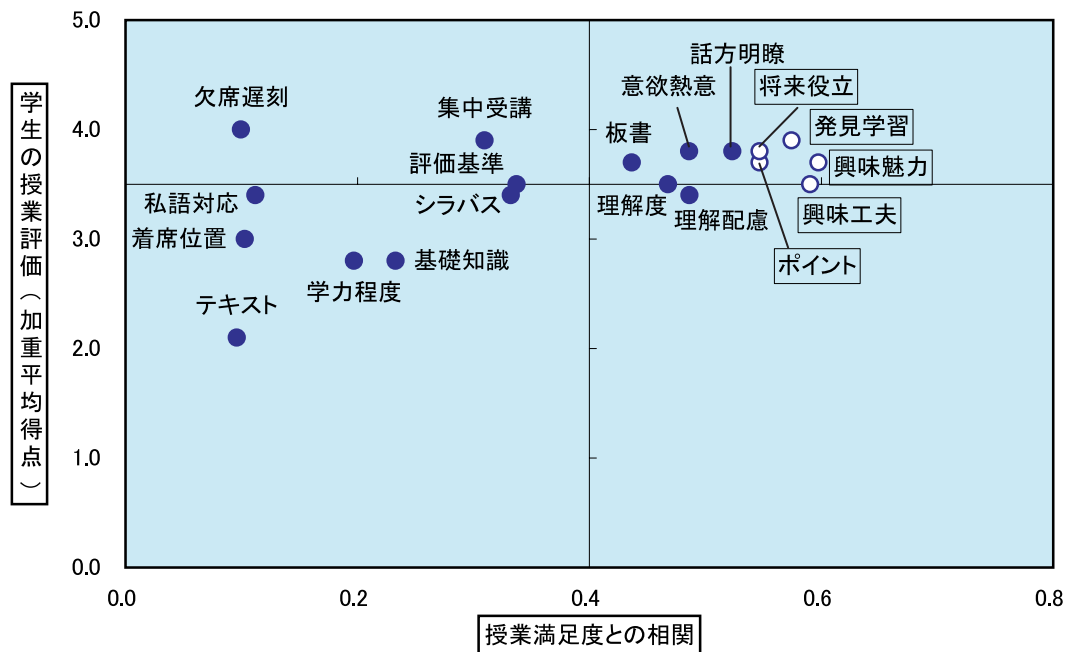
# 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

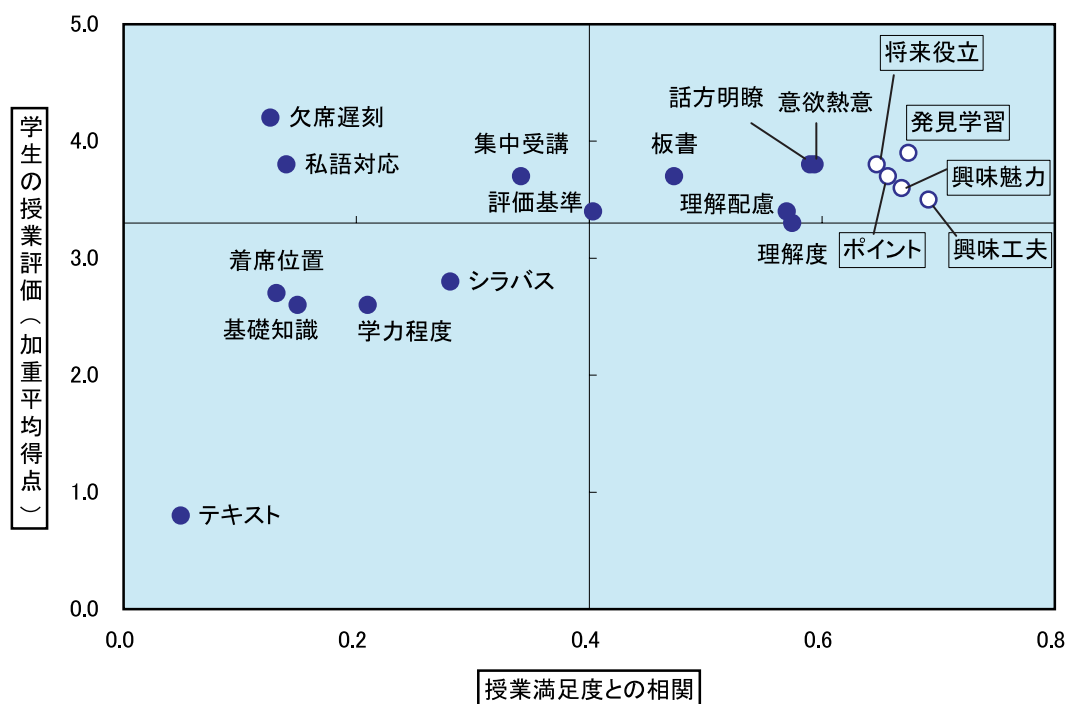
人間学部では、「興味魅力」、「興味工夫」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「将来役立」のスコアが高い。教職課程は、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度と相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「発見学習」、「将来役立」のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足度のいくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

## <人間学部>



## <教職課程>



※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸：授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸：各項目の平均点とした。各学部により異なる。

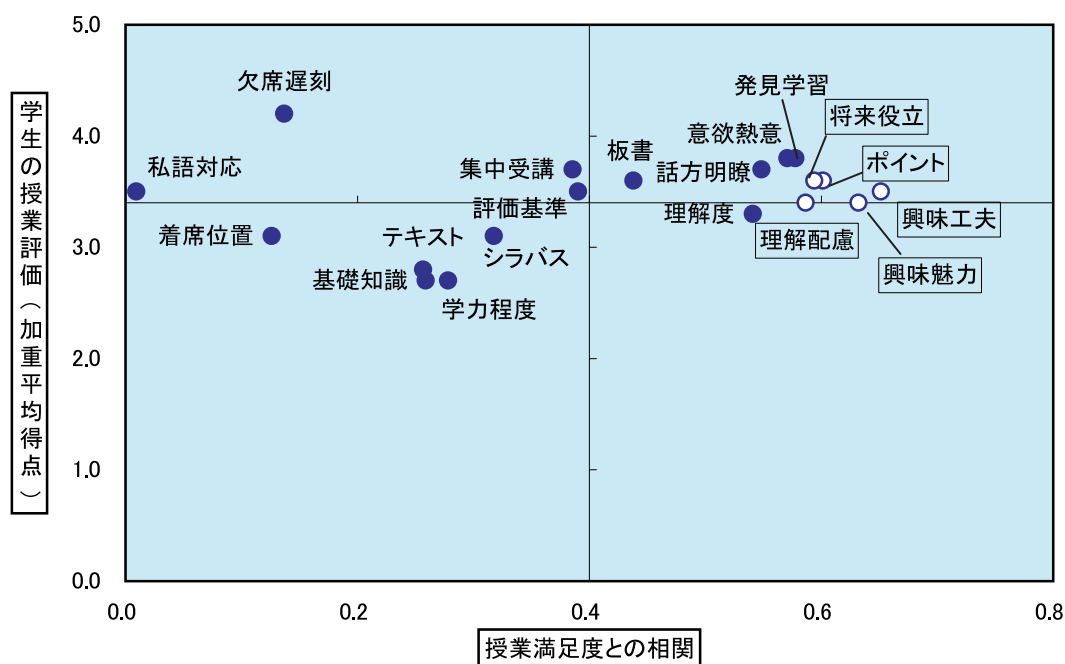
## 7 授業満足度と相関の高い項目

[学生]

全学共通教育では、「興味工夫」、「興味魅力」が満足度との相関が特に高く、満足度との相関が高いトップ5の項目の中では「将来役立」と、「ポイント」のスコアが高い。

学生対象18設問について「学生設問Q19.この授業は総合的に見て満足 of いくものである」との相関を算出した。○の項目は授業満足度と相関が高い5項目になります。これらの項目の改善が、授業満足につながります。

### <全学共通教育部門>



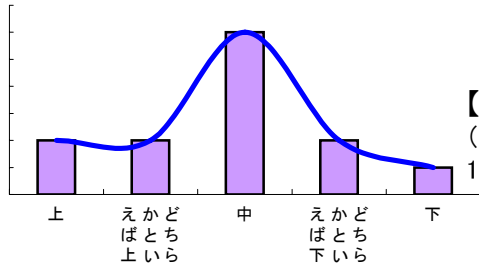
※各項目の加重平均得点の算出方法はP53～73参照  
 ※横軸: 授業満足度との相関が0.4の部分(相関係数が0.4以上では相関が高いといえる。)全学部共通。  
 縦軸: 各項目の平均点とした。各学部により異なる。

## 8 学生の学力分布のタイプ分け

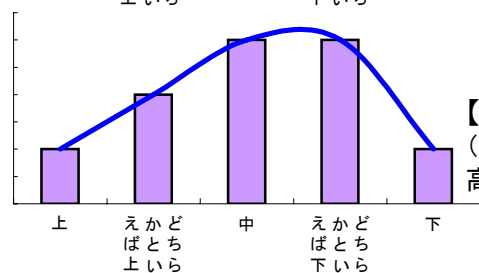
【授業】

「1山で分布狭い型」はほぼ6割と人間学部と教職課程で多い。一方、薬学部・農学部・理工学部で、「1山で分布広い型」が多く、学力別クラスが有効と思われる。

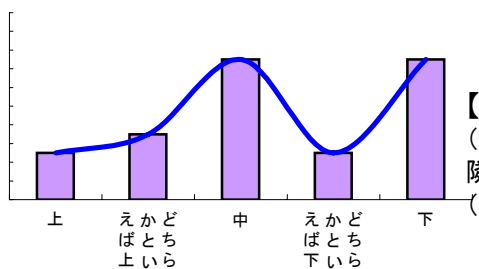
学生の学力分布を「学生設問Q20.自分の学力はどの程度だと思いますか。」を基に類型化した。「どちらかといえば上」は「上」に含めて集計した。方法は目視した結果を基に数値にて定義した。尚、無回答の多い授業や類型化できない授業については分析から外した。



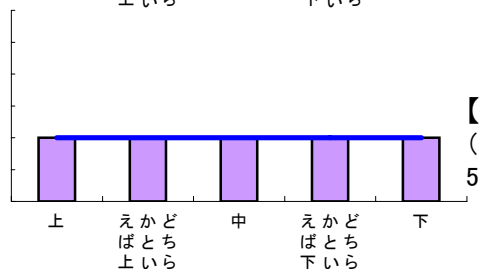
【1山で分布狭い型(248授業/671授業)】  
 (上・中・どちらかといえば下・下のいずれかに学生が集中しているタイプ)  
 1つの学力レベルに45%以上集まり且つ他の学力レベルとの差が20%以上



【1山で分布広い型(329授業/671授業)】  
 (2つの連続する学力レベルに学生が集まっているタイプ)  
 高い2つの学力レベルに58%以上集中し且つ2つの学力レベル差が20%以内



【2山型(21授業/671授業)】  
 (学生の学力レベルが二つに分離しているタイプ)  
 隣接する学力レベルの差が10%以上あるもの  
 (中と下の項目に学力が分離しているタイプ)



【広範囲型(15授業/671授業)】  
 (広い学力範囲に学生が分布しているタイプ)  
 5つの学力レベルが全てが10%以上

### ■学力分布

	授業数	1山で 分布狭い型	1山で 分布広い型	2山型	広範囲型	未分類
全体	671	37.0	49.0	3.1	2.2	8.6
法学部	92	37.0	44.6	6.5	4.3	7.6
経営学部	38	47.4	36.8	2.6	7.9	5.3
経済学部	30	40.0	46.7	0.0	0.0	13.3
理工学部	273	33.0	53.8	3.3	1.1	8.8
農学部	43	30.2	62.8	0.0	4.7	2.3
薬学部	25	24.0	72.0	0.0	0.0	4.0
都市情報学部	29	44.8	41.4	3.4	0.0	10.3
人間学部	30	63.3	30.0	0.0	0.0	6.7
教職課程	24	58.3	37.5	0.0	4.2	0.0
全学共通教育部門	87	33.3	43.7	4.6	2.3	16.1

\* 全体より10ポイント高いものには網掛け

# 9 学力程度別の授業満足度

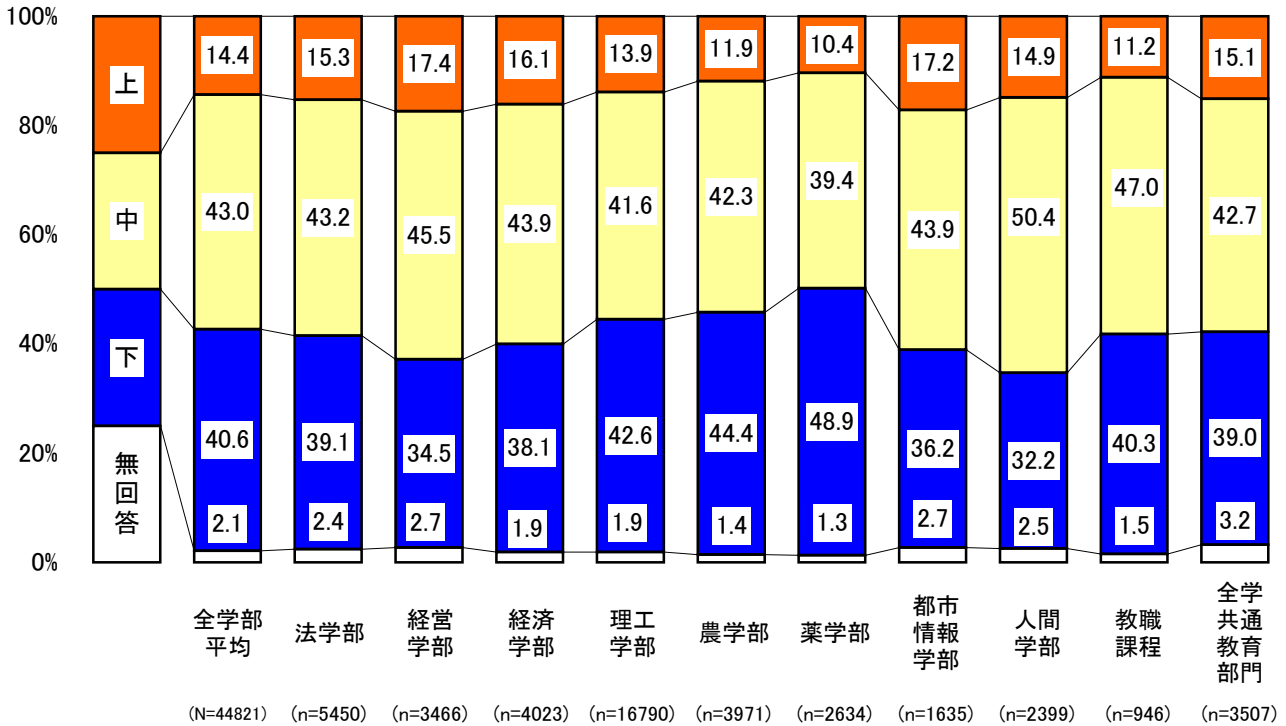
[学生]

自分の学力が上位(「強く」+「ややそう思う」)と思っている学生はわずか1~2割前後である。また、学力レベルと満足度の相関は非常に高く、成績が良いほど満足度は高く、成績が上位の学生の7割近くが授業に満足している。一方、成績が下位の学生も4割近くは授業に満足しているが、授業に不満(「全く」+「あまりそう思わない」)の学生も成績が下位で2割を超える。

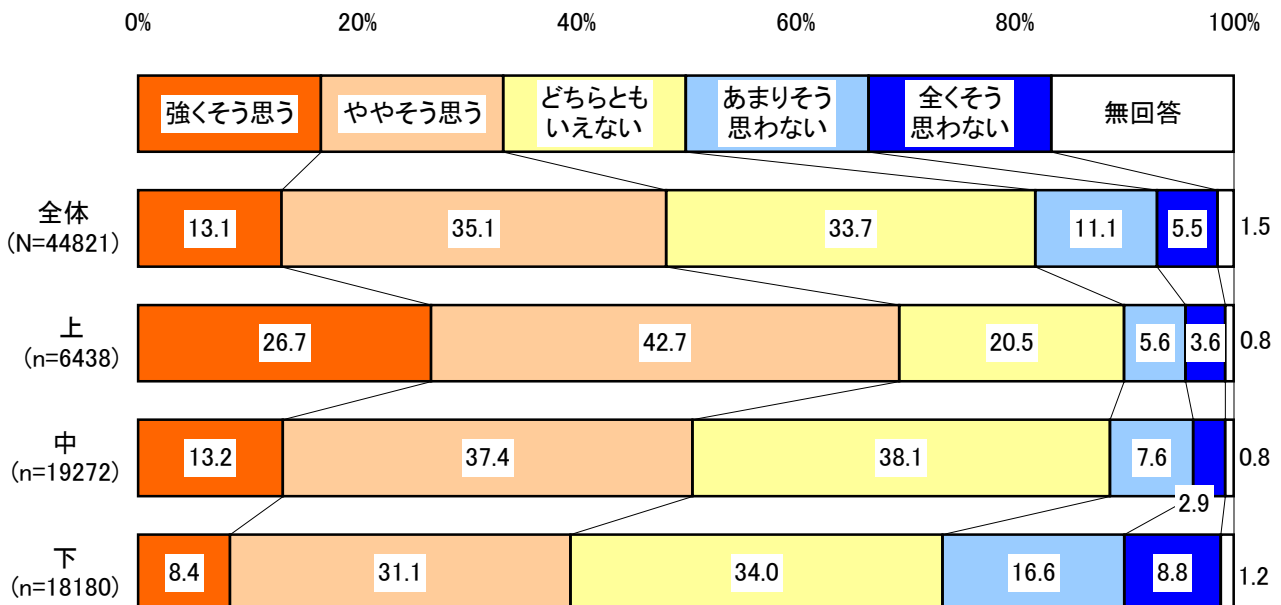
学生の学力を聞いた、「学生設問Q20.自分の学力はどの程度だと思いますか。」についての回答をもとに学力を上、中、下に分類した。

各学力レベル別に授業満足度がどの程度変化があるのか確認する。

## <学力レベルの分布>



## <学力レベル別満足度>

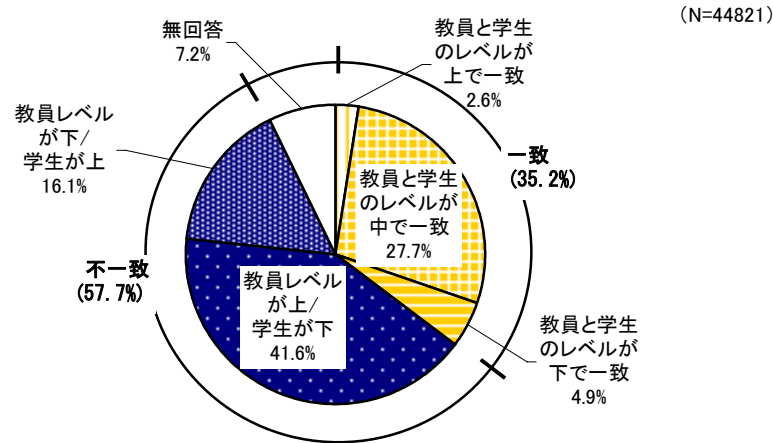


# 10 教員と学生の対象レベルの一致

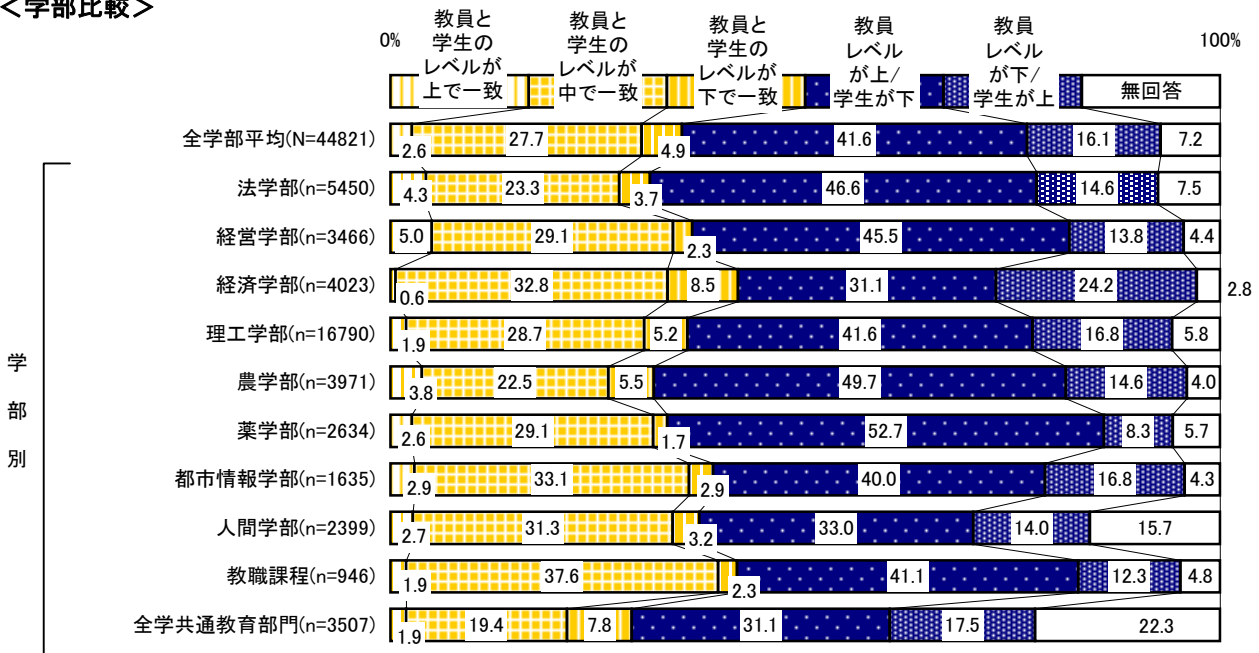
[教員] [学生]

半数以上の授業で、教員が想定しているレベルと学生の自己評価のレベルが一致せず、教員が想定しているレベルが学生より高い場合が4割を超える。しかしながら、レベルの一致は満足度にあまり影響を与えず、「両者のレベルが下で一致」した場合の満足度が最も低くなる。

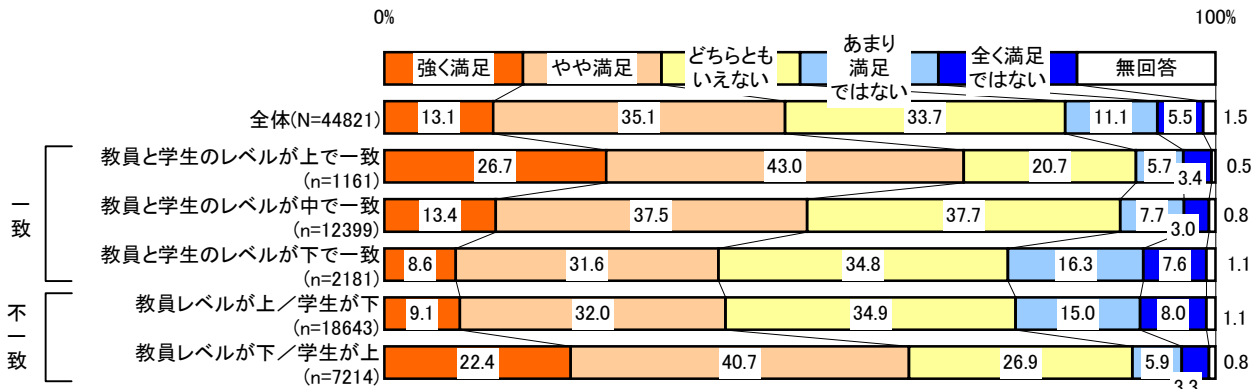
教員設問Q1.この授業はどのレベルの学生に合わせていますか。  
 学生設問Q20.自分の学力はどの程度だと思えますか。  
 について、一致度合いを確認した。



## <学部比較>



## <満足度との関係>



# 1 1 出席率について

[授業]

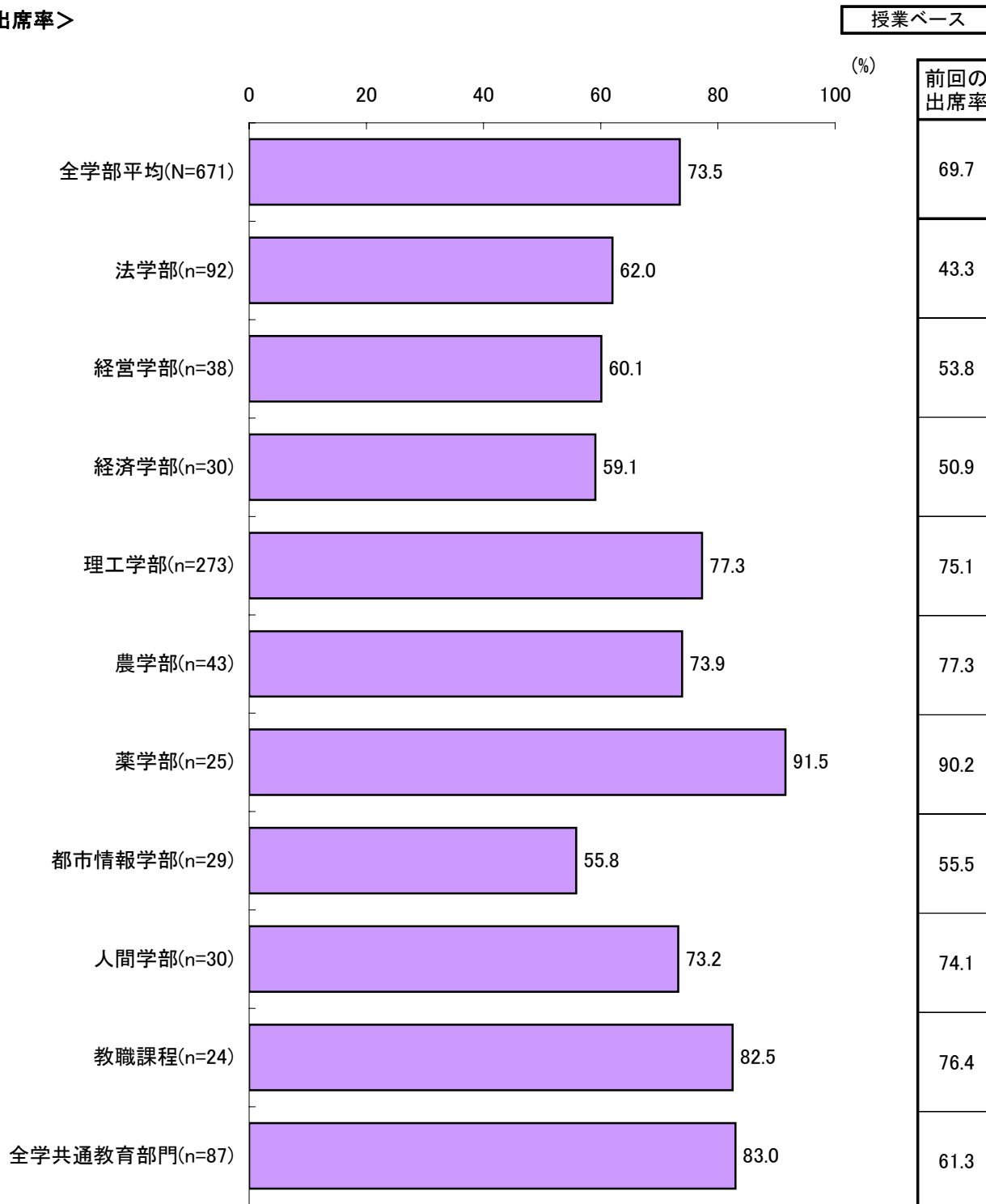
前年に比べ、出席率は上昇傾向にある。特に全学共通教育部門、法学部の出席率の増加が大きい。

各授業の受講学生(登録学生)数と本アンケート調査の回答者数をもとに出席率を計算した。  
ここで表す出席率とは

$$\text{出席率} = \frac{\text{本アンケート回答者数(各授業における)}}{\text{受講者数(登録学生数)}}$$

とした。

<出席率>



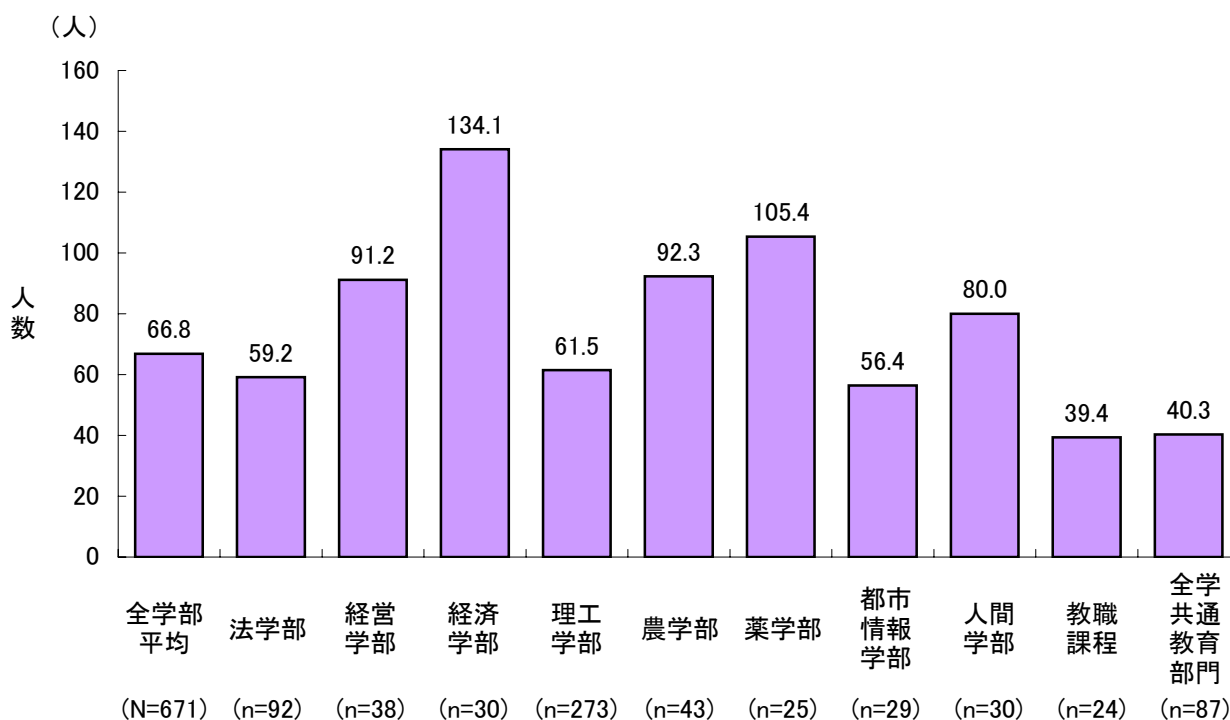
## 1 2 出席学生数と出席学生数別満足度

[授業]

1クラスあたりの出席者が40人未満になると満足度が急に高くなることがわかった。それ以上の出席者をかかえる授業では出席者の人数によって満足度はあまり変化しない。

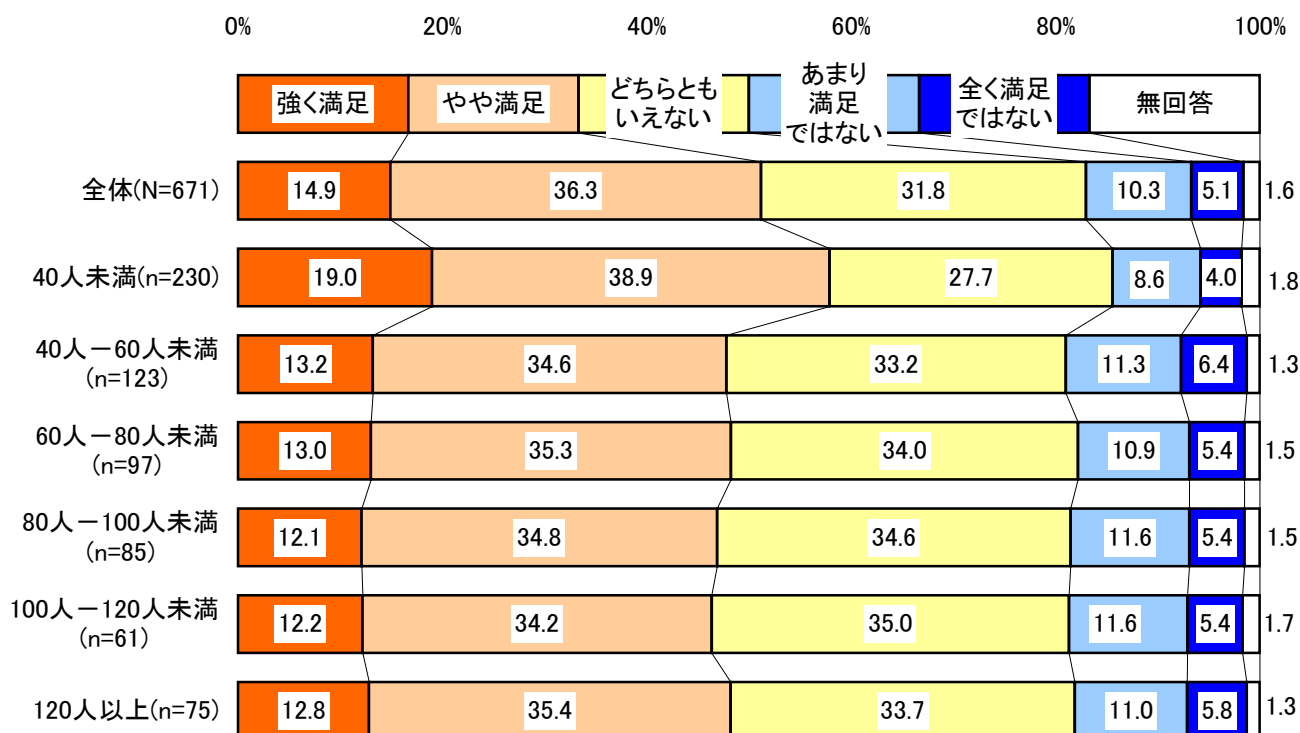
<授業あたりのアンケート回答者数平均>

授業ベース



<アンケート回答者数(出席学生数)別授業満足度>

授業ベース

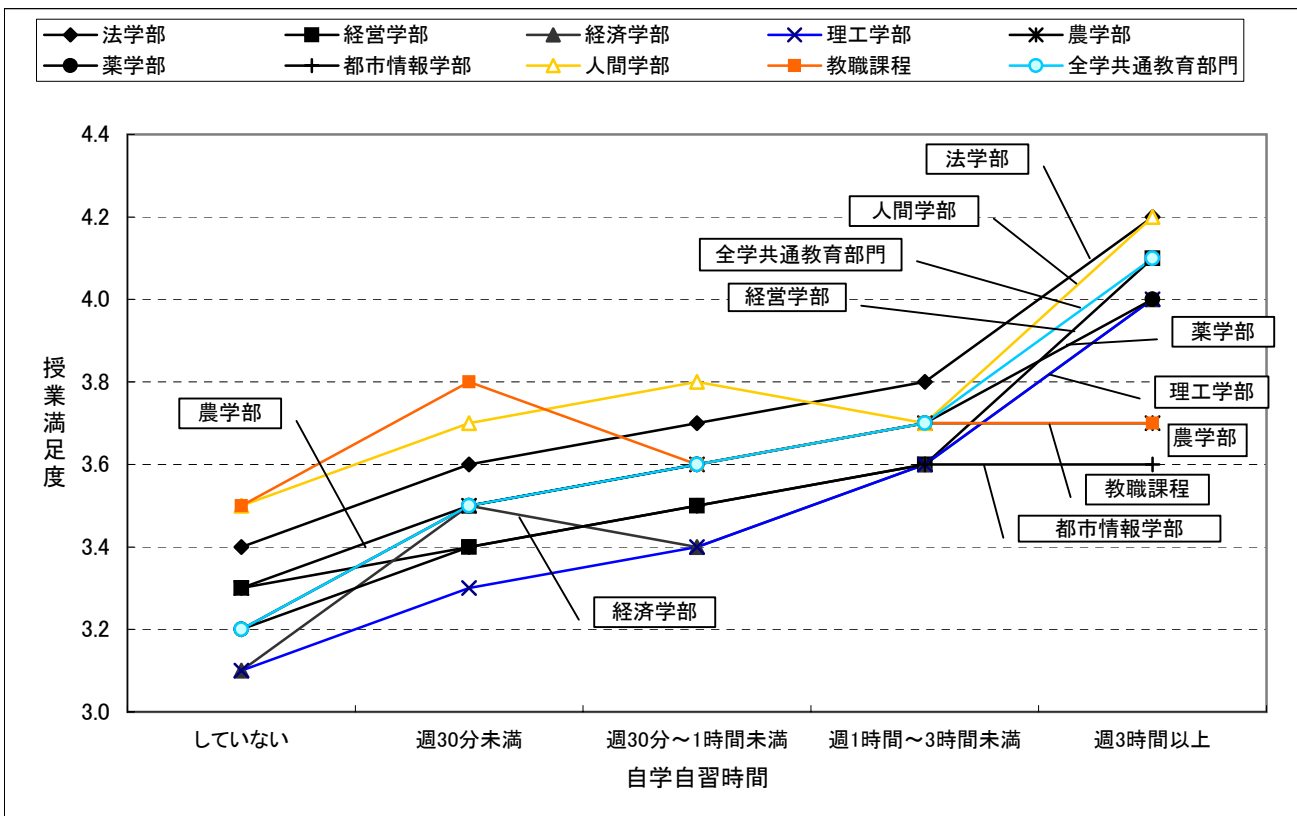
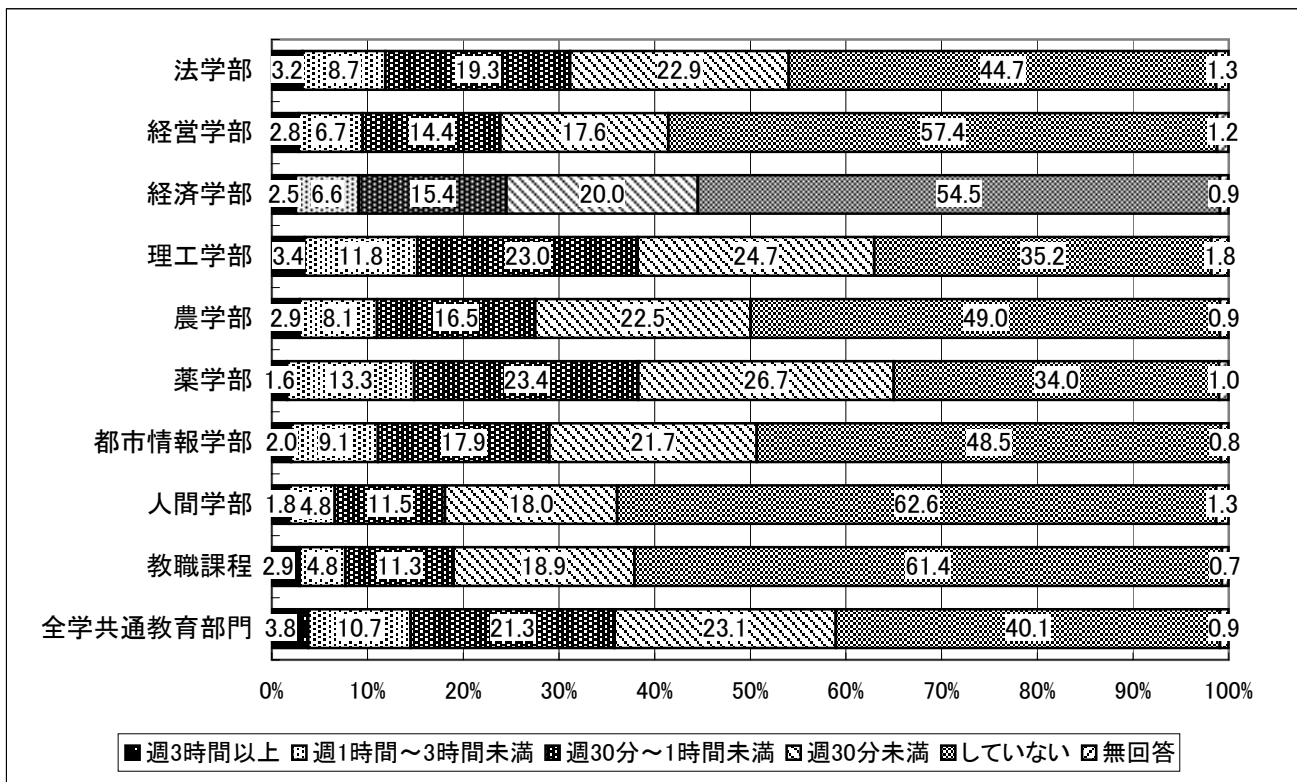




# 1 3 自学自習時間と授業満足度の関係（1）

[学生]

自学自習時間が長い学生ほど、授業に対する満足度が高い明らかな傾向がある。40～60%の学生が自学自習をしていないのは大きな問題である。



# 1 4 自学自習時間と授業満足度の関係（2）（授業プロット）

自学自習時間が多く満足度も高い①の象限にあてはまる優れた授業の数はどれくらいあるだろうか。

## 授業満足度×自学自習時間

相関係数

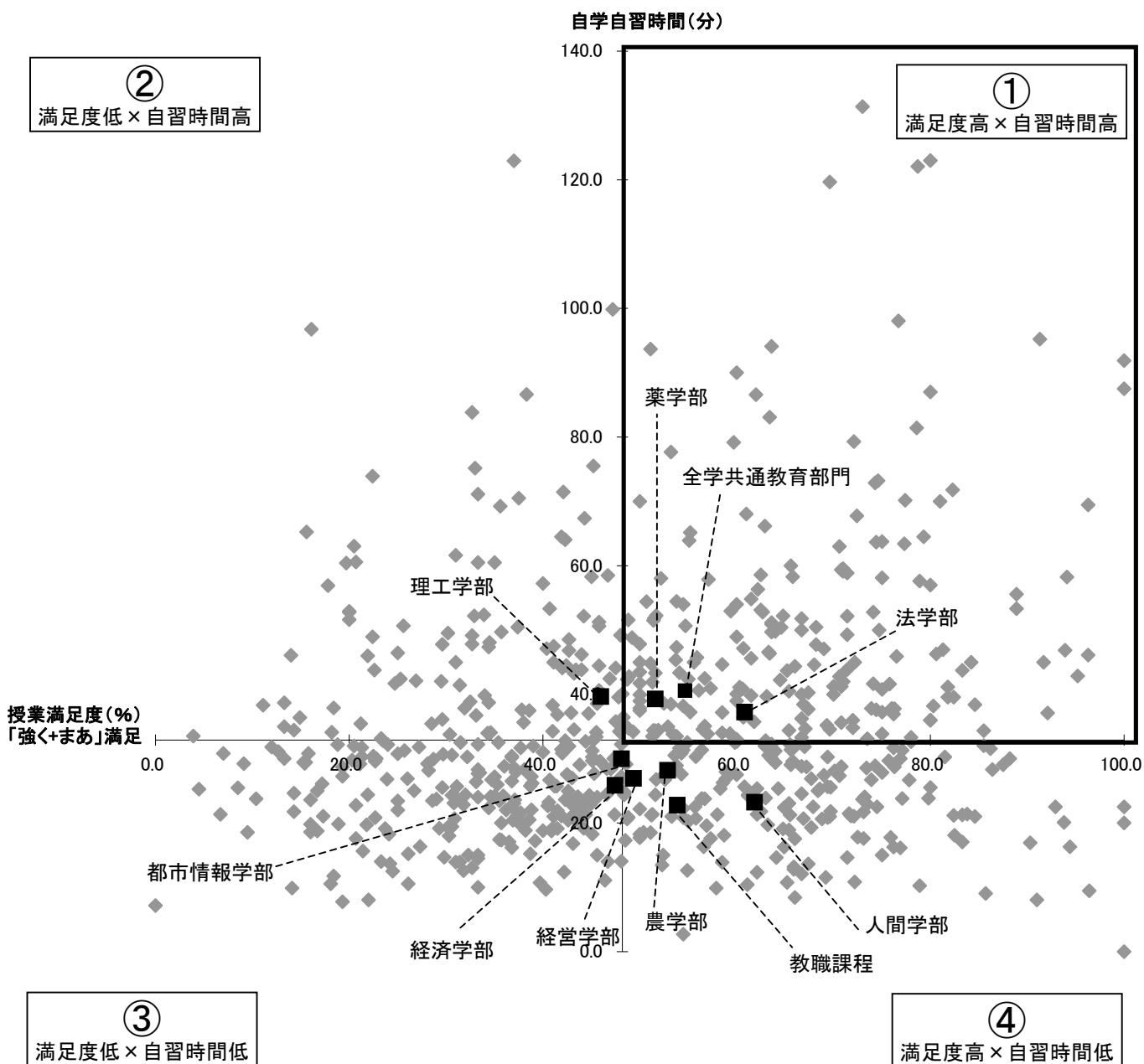
$$r=0.18$$

2008年

象限	授業数(671授業)	
①	195	29.1
②	108	16.1
③	199	29.7
④	169	25.2

2007年

象限	授業数(333授業)	
①	73	21.9
②	69	20.7
③	87	26.1
④	104	31.2



# 1 4 自学自習時間と授業満足度の関係（2）（授業プロット）

前回に比べ、自学自習時間が多く満足度も高い①の象限にあてはまる授業がどの学部でも増加している。特に全学共通教育部門・薬学部・法学部では①の授業割合が高い。

## 授業満足度×自学自習時間

2008年

象限	授業数(671授業)	
①	195	29.1
②	108	16.1
③	199	29.7
④	169	25.2

2007年

象限	授業数(333授業)	
①	73	21.9
②	69	20.7
③	87	26.1
④	104	31.2

2008年

法学部(92授業)		
①	37授業	40.2
②	6授業	6.5
③	14授業	15.2
④	35授業	38.0

2007年

法学部(26授業)		
①	8授業	30.8
②	8授業	30.8
③	3授業	11.5
④	7授業	26.9

2008年

薬学部(25授業)		
①	11授業	44.0
②	5授業	20.0
③	6授業	24.0
④	3授業	12.0

2007年

薬学部(41授業)		
①	18授業	43.9
②	6授業	14.6
③	9授業	22.0
④	8授業	19.5

2008年

経営学部(38授業)		
①	7授業	18.4
②	2授業	5.3
③	20授業	52.6
④	9授業	23.7

2007年

経営学部(27授業)		
①	4授業	14.8
②	3授業	11.1
③	9授業	33.3
④	11授業	40.7

2008年

都市情報学部(29授業)		
①	4授業	13.8
②	5授業	17.2
③	11授業	37.9
④	9授業	31.0

2007年

都市情報学部(24授業)		
①	3授業	12.5
②	3授業	12.5
③	4授業	16.7
④	14授業	58.3

2008年

経済学部(30授業)		
①	3授業	10.0
②	0授業	0.0
③	17授業	56.7
④	10授業	33.3

2007年

経済学部(21授業)		
①	0授業	0.0
②	1授業	4.8
③	9授業	42.9
④	11授業	52.4

2008年

人間学部(30授業)		
①	6授業	20.0
②	0授業	0.0
③	7授業	23.3
④	17授業	56.7

2007年

人間学部(18授業)		
①	2授業	11.1
②	1授業	5.6
③	2授業	11.1
④	13授業	72.2

2008年

理工学部(273授業)		
①	78授業	28.6
②	68授業	24.9
③	81授業	29.7
④	46授業	16.8

2007年

理工学部(132授業)		
①	37授業	28.0
②	44授業	33.3
③	31授業	23.5
④	20授業	15.2

2008年

教職課程(24授業)		
①	2授業	8.3
②	2授業	8.3
③	8授業	33.3
④	12授業	50.0

2007年

教職課程(5授業)		
①	0授業	0.0
②	0授業	0.0
③	0授業	0.0
④	5授業	100.0

2008年

農学部(43授業)		
①	3授業	7.0
②	3授業	7.0
③	16授業	37.2
④	21授業	48.8

2007年

農学部(33授業)		
①	1授業	3.0
②	3授業	9.1
③	15授業	45.5
④	14授業	42.4

2008年

全学共通教育部門(87授業)		
①	44授業	50.6
②	17授業	19.5
③	19授業	21.8
④	7授業	8.0

2007年

全学共通教育部門(6授業)		
①	0授業	0.0
②	0授業	0.0
③	5授業	83.3
④	1授業	16.7

\* 全体より10ポイント以上高いものに網掛け

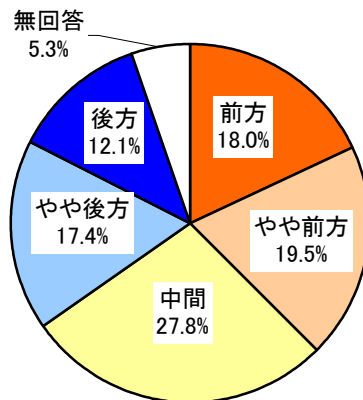
# 1 5 着席位置と授業満足度の関係

[学生]

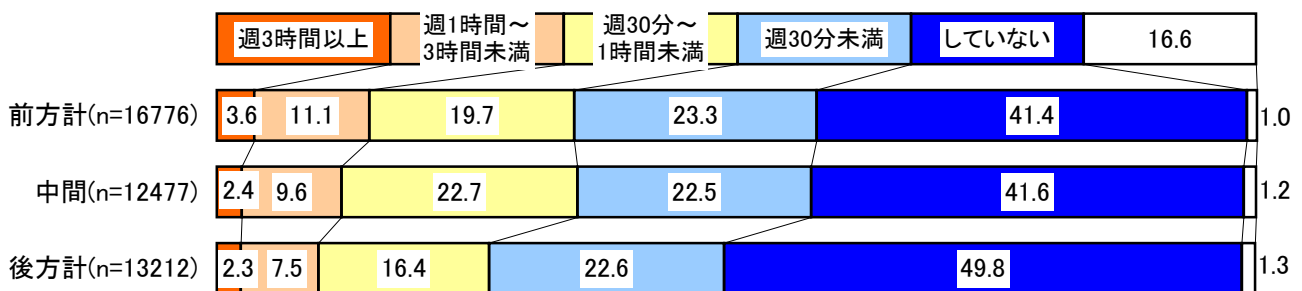
前方に着席する学生は、自学自習時間が長く、授業満足度も高く、学力も上位の傾向がある。一方、後ろに着席する学生は、自学自習時間が短く、学力も下位の傾向があるが、満足度は中間に座る学生と大きく変わらない。ただし、後ろに着席する学生では、まったく自学自習をしていないもの、授業に不満を持つものの割合が高い。

Q21.あなたは普段教室のどのあたりに着席して授業を受けていますか。おおよその位置で結構です。

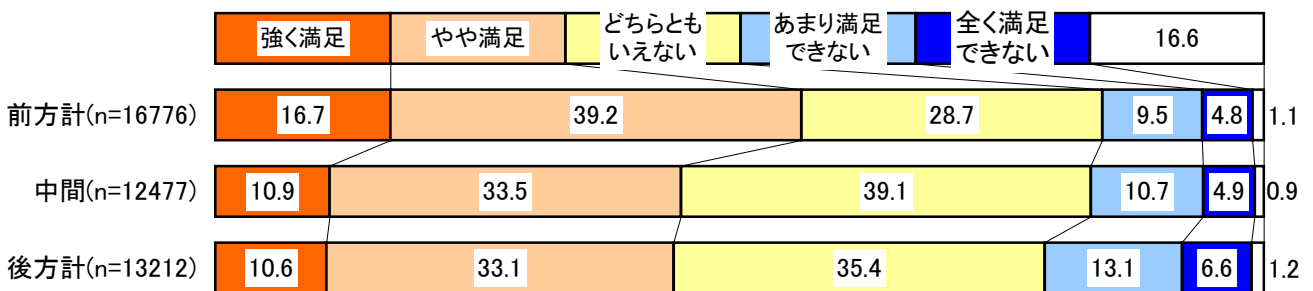
全体(N=44821)



## <自学自習時間との関係>



## <授業満足度との関係>



## <学力程度との関係>

